

中部大学民族資料博物館

年報

2012

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY ART CHUBU UNIVERSITY

巻頭言

今年度はかねてより申請していた「博物館相当施設」について、審査の結果、指定を受けることとなった(2013年2月5日 愛知県公報告示搭載)。活動実績の少ない当館が、審査に通過するためにも、開館わずか二年目においても意欲的に多彩な催事を企画、実施し活動を記録してきた。その努力が実り、晴れて指定を受けることとなり、今後は、博物館学芸員課程における実習の正式な実施施設として活動できるという施設の立場となるとともに、地域へ広く教育的普及活動を行う役割となることになり、活動の幅をより一層深めていく必要がある。大学内だけではなく、さらに地域に有意義な学習環境として成長するために、ひきつづき県の指導のもとで、施設整備、収蔵資料の管理整備を計画的に進行していく。

今年の活動のなかで昨年からの流れを概観すると、高校の見学数の増加や、教員サイドの研修や研究のための学びの場としての利用が複数発生してきた点が大きな変化として挙げられる。これも昨年度の企画催事の実施によって学外に向けた広報活動が実を結んだ一つの表れであろう。今年度は次のような内容で、展示および講演、講座を実施した。

4月の春季展示「墨に歌う砂漠の詩」(書道部学生と指導講師による墨書作品展示)は、中国の古い手紙文として用いられていた木簡の出土作品を模倣再現した作品への試みと現代作家のシルクロード紀行文を墨書で表した現代書の作品を展示した。東北大震災の後の初めての春とあって、絆という文字がマスコミ各所で叫ばれている時事的なニュースを背景に、学生たちは古代の大陸の通信文に惹かれたとのことだった。

6月に国際学会を本学で開催する時期にあわせて、個人収集家より中南米関連の民族資料を借用し、古代から近現代まで、幅広い時代にわたる120点余りを展示した。

同じく6月から7月にかけて、昨年にひきつづき、春季の三連続講演を企画。芸事の盛んな尾張地域にちなみ、絵画や茶道に関連した娯楽文化の歴史と今を考えるに相応しい研究者を各分野から呼ぶことができない、学内外から多くの聴衆に集まっていただき、関心度の高さを再認識できた。

8月の夏のオープンキャンパス開催期間には、夏の企画展示として収蔵資料のうち民族楽器に焦点をあてた「楽器のはじまり ～その素材から」を開催。実際に触れることのできる体験コーナーを設け、骨や角などさまざまな素材から成り立つ民族楽器を紹介した。大学見学に訪れた高校生やその父兄、また夏休み期間には幼児、小学生、中学生を対象とした学内研究グループによる、鑑賞教育および体験学習を目的とした企画催事で多くの年齢層に認識してもらおう機会となった。

9月から12月は、秋季の三連続講演を企画、同期間に秋季展示を開催した。東西美術の比較芸術学講話と題して、シルクロードを通じた中国文化をトルコ宮殿がどのように受容摂取したかという美術の流れから始まり、講演では、芸術作品と鑑賞者の知覚の関係性をさらに追求するかたちで、色彩学や、日本と西洋の芸術作品の鑑賞方法の相違をスライドを通じて考察する内容へと発展させていった。同じシルクロードとしても、話題の切り口となるテーマからすると非常に様々な観点が見出せることが、シルクロードというテーマの奥深さを一層感じさせ、興味が尽きないものであると知る結果となった。

3月には、秋学期期間に実施してきた「特別講座 古典絵画(絹絵・板絵)を描く」の受講生作品展示を開催。あわせて指導講師による賛助出品として研究作品、および制作工程と歴史の概要を記録した内容を場所別に展示。本講座は、当館の調査研究活動のテーマである「素材研究」の一環として開館初年度である昨年からは始まった企画行事である。一般対象の作品制作の講座であるが、制作過程において、日本の伝統的な天然素材を直接扱いながら作品へと昇華させることによって、伝統的な技法を通じて、美術史、文化史、材料学を学習する内容で、大学の専門研究を一般へいかに教育的に普及するかという課題へ向けた取り組みである。比較文化研究の軸として発展させていきたい。

以上のように、地域が参加できる場の提案・提供を大学博物館が積極的に工夫することで、大学から地域へ向けた発信力を構築していき、また、同時に地域にもりたてていただき、大学博物館として大学と地域を結び役割として成長していきたいと思っている。

2013年5月吉日 中部大学民族資料博物館

目次

巻頭言（平成 24 年度 博物館事業概要）

1 組織・施設

規程	2
博物館の組織・人員	3
運営委員会	4
収蔵資料点数	5
施設整備概要	6

2 博物館活動報告

開館日数・入館者統計	10
団体見学	11
会議	14
出張	14
展示・講演・講座	16
出版事業	30
資料収集	31
調査研究事業	32
教育・普及に関する活動	38
博物館資料の活用	46
渉外	47
広報活動	48

3 委員の外部活動

(別表) 民族資料博物館 平成 24 年度展示・催事一覧	66
------------------------------	----

1 組織・施設

・規程（細則等）

名称：中部大学民族資料博物館 外部専門者会議施行細則

日付：2012年6月1日

名称：中部大学民族資料博物館 管理運営細則

「寄贈資料の受入について」様式追加

日付：2012年1月30日

民族資料博物館の組織・人員

民族資料博物館スタッフ

館長 和崎 春日 (国際関係学部教授、国際関係学部長兼務)

副館長 宇治谷 恵 (準専任事務員、次長、学芸員兼務)

原田 千夏子 (専任事務員、学芸員兼務)

猪塚 里香 (臨時補助員 H24年7月～)

中川 智美 (臨時補助員 H25年2月～)

佐藤 尚子 (H24年10月～)

安藤 佳子 (H24年10月～)

運営委員会（平成 24 年度）

民族資料博物館運営委員会

アドバイザー	学園長	大西 良三
委員長	民族資料博物館長	和崎 春日
委員	民族資料博物館副館長	宇治谷 恵
	国際文化学科 教授	杓谷 茂樹
	国際文化学科 教授	中山 紀子
	国際文化学科 准教授	財部 香枝
	国際文化学科 准教授	中野 智章
	中国語中国関係学科 教授	澁谷 鎮明
	中国語中国関係学科 講師	宗 婷婷
	人文学部共通教育学科 教授	千葉 成夫
	人文学部コミュニケーション学科 教授	前田 富士男
	情報工学科 准教授	鈴木 裕利
	管財部長	井畑 耕三
	管財部次長	吉崎 真琴
	国際関係学部事務長	松村 悟
外部専門者	川上 實 （元愛知県立芸術大学学長、同大学名誉教授）	
	石毛 直道 （元国立民族学博物館館長、同名誉教授）	
	下川 辰彦 （日本美術院特待・国宝法隆寺金堂模写事業有実績）	
事務局	民族資料博物館	原田 千夏子 佐藤 尚子

地域		小計	収蔵資料点数	うち写真・映像資料
シルクロード	コイン	616	719	—
	その他	103		
オセアニア	オセアニア	213	515	66
	パプア	302		
アジア	西アジア(中東)	65	943	52
	東アジア	606		
	東南アジア	200		
	南アジア	72		
アメリカ	アメリカ	265	265	18
	アメリカ(中南米)			
アフリカ	アフリカ	76	99	4
	アフリカ(中東)	23		
ヨーロッパ	ヨーロッパ	172	172	5
不明		0	0	—
合計			2713	145

内、2012年度受入新規資料

34 (アメリカ資料)

4 (オセアニア資料 2点、西アジア資料 1点、東南アジア資料 1点)

その他、未整理資料

12 (オセアニア資料12点、3月受け入れ分)

施設整備概要

「博物館相当施設」の指定（2013年2月5日付公示）を受けるために、2012年度は、今後の施設整備環境を改めて考察し、他大学博物館や美術博物館における視察を通じて近年の資料保存に向けた試みを優先的に行う必要性がある点を再認識したことから、次のような工事作業を実施した。

・常設展示室における外光遮断フィルムの採用

常設展示室における展示ケースのうち、旧資料室から利用しているもので、オセアニア地域の大型ケースは、外光が入る設計となっている。この点については、外部有識者より展示資料の保存環境として危惧する意見を多く受け、管財部との協議により、該当箇所の窓ガラスの外側より、紫外線カットの機能を持つ特殊フィルムを貼付することとし、早急に管財部によって対応した。

・常設展示室の展示ケース、およびスポットライト照明のLED照明の採用

常設展示室の展示ケース、およびスポットライト照明のLED化を行った。設置にあたってケース内の設置角度を調整し、結果、以前に比較してケース全体によりやわらかな光をあてることになり、展示資料を照明の熱による退色や劣化の害から守るだけでなく、鑑賞者が鑑賞しやすい状況になった。展示室の天井蛍光灯の照明については、今後状況をみて検討していく。

・常設展示室のガラス製展示ケース、および大型展示ケースの耐震防止対策

今後の学芸員実習をはじめとする授業や見学に配慮し、人員の安全を第一優先にするために、まず地震対策として、常設展示室のガラス製展示ケース、および大型展示ケースの耐震防止のために、ガラス製展示ケースの下部には転倒防止マットを設置、可動式の展示台については、キャリー止め用の専用受け皿を設置、大型展示ケースについては、転倒防止のために壁面への固定を行った。

・常設展示室のガラス製展示ケースにおける飛散防止フィルムの採用

地震対策のためにガラス製展示ケースには、飛散防止フィルムを貼った。近年の技術発展による透明度が高く、かつ照明の反射を抑える性質に秀でた種類のフィルムを採用したことで、以前に比較し、より鑑賞しやすい環境となった。

- **温湿度計測機（データロガー）の設置**

主な展示スペース、および収蔵庫各所に、温湿度計測機（データロガー）を設置し、年間を通じた温度湿度の計測を開始した。これにより、データの統計結果に応じて、温度湿度の調整対応の方法を検討し改善していく。

（原田）

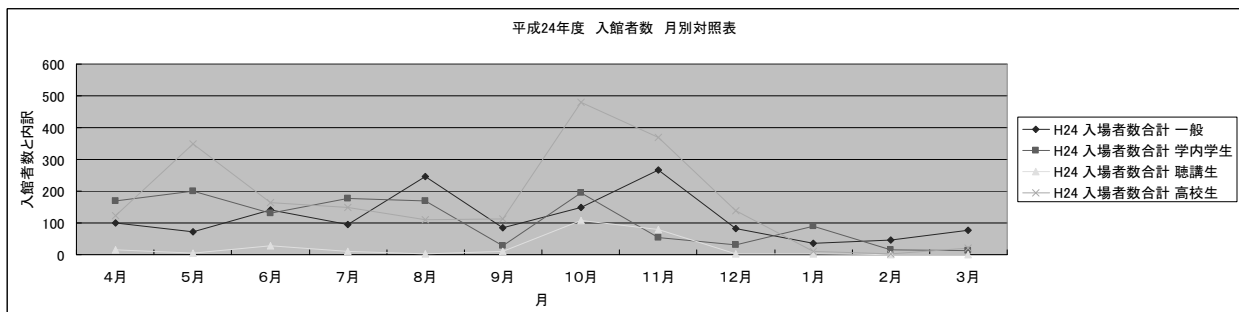
2 博物館活動報告

開館日数・入館者統計

(平成 24 年度 入館者数 月別表)

	開館 日数	入館者数	一般	本学 学生	高校生等	備考
4 月	21	406	99	185	122	春季展示、春のオープンキャンパス(21 日)、高校見学(3 件)
5 月	20	625	72	204	349	高校見学(5 件)
6 月	23	464	142	159	163	テニアリカ展、学会(2・3 日)、講演会(6 日)、春季連続講演(20 日)、 高校見学(7 件)
7 月	22	432	95	187	150	テニアリカ展、春季連続講演(5・19 日)、高校見学(5 件)
8 月	16	527	246	171	110	夏休み企画、夏のオープンキャンパス(5・6・7 日)、高校見学(5 件)
9 月	20	236	84	38	114	秋季展示、高校見学(2 件)
10 月	24	932	150	302	480	秋季展示、秋のオープンキャンパス(13 日)、秋季連続講演(17 日)、 高校見学 (10 件)
11 月	22	767	266	133	368	秋季展示、大学祭(1～3 日)、父母との集い(11 日)、秋季連続講 演(14・28 日)、高校見学(13 件)
12 月	16	253	81	33	139	秋季展示、高校見学(6 件)
1 月	18	138	36	91	11	高校見学(1 件)
2 月	16	66	46	17	3	高校見学(2 件)
3 月	16	109	76	13	20	特別講座作品展示、高校見学(1 件)、卒業式 (23 日)
計	234	4955	1393	1533	2029	
比率			26%	31%	41%	
合計					4,955	

(平成 24 年度 入館者数 月別対照表) グラフ



平成 24 年度の開館日は 234 日、入館者数の合計は 4,955 名である。この他、学内の別会場における催事（春季、秋季の各連続講演）の参加者数計 417 名をあわせると、当館の平成 24 年度の催事参加者は、合計 5,372 名となる。

昨年度にひきつづき、大学博物館として、大学催事への積極的な参加を試み、土日祝日における催事開催時には特別開館の対応をできるだけとよう図った。特別開館した催事は次のとおりである。

平成 24 年度 大学催事に特別開館対応をした主な催事

- ・ 4 月 21 日（土） 春のオープンキャンパス （92 名）
- ・ 6 月 2、3 日（土、日） 日本ラテンアメリカ学会 （30 名）
- ・ 8 月 5～7 日（日～火） 夏のオープンキャンパス （295 名）
- ・ 10 月 13 日（土） 秋のオープンキャンパス （212 名）
- ・ 11 月 3 日（土） 大学祭 （41 名）
- ・ 11 月 11 日（日） 父母との集い （68 名）
- ・ 3 月 23（土） 卒業式 （12 名）

<団体見学等>

年間の入館者数のうち、団体見学としては、主に高校生である。大学の施設見学における見学コースに当館の利用が増えたことも要因となつて、昨年度に比べ、受入件数は 60 件、見学総数が合計 2,029 名となり、昨年度比約 55%増となった。

この他、地域の市民グループの見学、高校教員の研修会利用や、障がい学生団体見学、高校の課外授業における展示室利用など、件数は多くないものの、開館二年目にして大学周辺の学校教育関連施設への関心の広がりが徐々に見受けられてきた。

平成 24 年度 高校見学受入状況

4 月 16 日（月）	愛知県立海翔高等学校	24 名
4 月 21 日（土）	春のオープンキャンパス キャンパスツアー高校生	84 名
4 月 27 日（金）	三重県学校法人享栄学園鈴鹿高等学校	14 名
5 月 8 日（火）	岐阜県立東濃実業高等学校	250 名
5 月 11 日（金）	岐阜県立中津商業高等学校	21 名
5 月 15 日（火）	岐阜県立麗澤高等学校	41 名
	愛知県立名古屋南高等学校	2 名
5 月 25 日（金）	岐阜県立坂下高等学校	35 名
6 月 1 日（金）	静岡県 修学舎高等学校	19 名
6 月 14 日（木）	岐阜県立瑞浪高等学校 P T A	20 名
6 月 15 日（金）	愛知県 豊川高等学校	10 名
6 月 19 日（火）	長野県赤穂高等学校	20 名
6 月 20 日（水）	三重県立亀山高等学校	43 名

6月28日(木)	岐阜県立羽島北高等学校PTA	36名
6月29日(金)	名古屋造形大学	15名
7月5日(木)	愛知県立立御津高等学校	34名
7月6日(金)	岐阜県立東濃フロンティア高等学校PTA	18名
7月11日(水)	愛知県 豊川高等学校	56名
7月20日(金)	愛知県 春日丘高等学校	2名
7月24日(火)	富山県立泊高等学校	40名
8月6日(土)	夏のオープンキャンパス キャンパスツアー高校生	28名
8月7日(日)	夏のオープンキャンパス キャンパスツアー高校生	24名
8月22日(水)	受験予定者高校生	1名
8月29日(水)	富山県立富山西高等学校	55名
8月30日(木)	香川県立土庄高等学校	2名
9月8日(土)	春日丘中学校	86名
9月10日(月)	岐阜県 聖徳学園高等学校	28名
10月2日(火)	高校生	2名
10月8日(月)	高校生	2名
10月13日(土)	秋のオープンキャンパス キャンパスツアー高校生	203名
10月19日(金)	愛知県立犬山高等学校	84名
10月24日(水)	愛知県立一色高等学校	10名
10月25日(木)	岐阜県立中津高等学校	21名
	静岡県 聖隷クリストファー高等学校	31名
10月26日(金)	愛知県立松平高等学校	55名
10月30日(火)	岐阜県立関有知高等学校	70名
10月31日(水)	高校生	2名
11月2日(金)	高校生	1名
11月8日(木)	岐阜県 瑞浪高等学校	30名
	岐阜県立多治見高等学校	17名
11月9日(金)	三重県立桑名高等学校	37名
11月10日(土)	春日井市内の中学生	80名
11月13日(火)	愛知県立日進高等学校	26名
11月14日(水)	三重県立いなべ総合学園高等学校	34名
11月15日(木)	愛知県立安城南高等学校	40名
	長野県立飯田風越高等学校	35名
	愛知県立春日井西高等学校	23名
11月16日(金)	愛知県立岩津高等学校	38名
11月27日(火)	受験予定者高校生	1名
11月29日(木)	愛知県 豊川高等学校	6名
12月3日(月)	岐阜県立八百津高校	23名
12月4日(火)	岐阜県立土岐紅陵高等学校	24名
12月5日(水)	岐阜県立鳥羽高等学校	15名

12月12日(水)	愛知県立春日井商業高等学校	12名
12月14日(金)	三重県立四日市四郷高等学校	30名
12月17日(月)	静岡県立浜松西高等学校	35名
1月22日(火)	岐阜農林高校	11名
2月1日(金)	高校生	1名
2月15日(金)	高校生	2名
3月25日(月)	文系志望の複数校の高校生	20名

(受入件数計 60 件、合計人数 2,029 名：前年度比 約 55%増)

<申請関連>

2012年8月1日	博物館相当施設指定 申請書 提出
2012年10月30日	博物館相当施設審査会 実施 (愛知県教育委員会)
2013年1月10日	博物館相当施設指定に関する改善計画書 提出
2013年2月6日	平成25年2月5日付 博物館に相当する施設の指定について (通知) 受理

会議・出張

・会議

運営委員会

第1回(5月16日)

- 議事
- 1 新委員紹介
 - 2 博物館相当施設登録指定審査の申請について
 - 3 細則の追加について
外部専門委員会(仮称)細則について
 - 4 寄贈資料の申し出(申請書案)について

第2回(8月3日)

- 議事
- 1 秋季行事案について
 - 2 博物館相当施設登録指定審査の申請について(経過)
 - 3 紀要、研究書発刊、催事記録の作成について
 - 4 中・長期計画案について

第3回(1月30日)

- 議事
- 1 博物館相当施設指定審査会報告、及び改善計画書案について
 - 2 印刷物の作成について
 - 3 寄贈資料経過報告について
 - 4 資料の長期借用の取扱いについて
- その他 資料のデータ管理について

外部専門者会議

第1回(10月1日)

- 議事
- 1 10月30日実施予定の博物館相当施設指定審査会のための準備事項について
 - 2 博物館の中・長期計画案と今後の展望について

・出張

- 6月9日～10日 アート・ドキュメンテーション学会参加(日本大学芸術学部)(原田)
- 6月26日 愛知県博物館協会総会出席(名古屋市科学館)(宇治谷・原田)
- 7月18日 東海地区博物館連絡協議会・日本博物館協会東海支部総会出席(静岡県立美術館)(宇治谷)

- 8月4日 (ソフトウェアワークショップ参加：名古屋市伏見) (原田)
- 10月19日～20日 全国博物館学協議会出席 (広島女学院大学) (宇治谷)
- 11月2日 特別講演会「ジョージ・ハイン博士 博物館の社会的責任」出席 (南山大学人文学部) (原田)
- 11月29日 東海三県博物館研究交流会出席 (岐阜県美術館) (宇治谷)
- 12月8日 (ソフトウェアワークショップ参加：名古屋市伏見) (原田)
- 12月17日 博物館収蔵庫及び展示室の環境調査 (国立民族学館) (宇治谷・原田)
- 2月14日～15日 日本博物館協会研究協議会「博物館の災害対策」参加 (大阪歴史博物館) (宇治谷)
- 2月19日 愛知県博物館協会 三河地域研修会出席 (原田)
- 3月20日 資料調査 (京都府絵具工房等) (原田)

[この他、打合せに関する出張]

- 6月5日 (長久手文化の家) (宇治谷・原田) ※申請準備、講演依頼等
- 6月18日 (京都市北山会館) (宇治谷) ※講演依頼
- 6月27日 (花園歴史博物館) (宇治谷)
- 7月13日 (龍谷大学) (宇治谷) ※講演依頼
- 8月23日 (東西美術交流センター) (宇治谷)
- 9月10日 (個人宅：奈良県) (宇治谷)
- 11月6日 (長久手文化の家) (原田) ※申請準備、講演依頼等
- 12月13日 (個人宅：愛知県津島市) (宇治谷)

[博物館相当施設申請のためのヒアリング]

- 7月24日 (愛知県庁) (宇治谷・原田)
- 8月27日 (愛知県庁) (宇治谷・原田)
- 9月24日 (愛知県庁) (原田)
- 10月2日 (愛知県庁) (原田)
- 11月30日 (愛知県庁) (原田)
- 1月15日 (愛知県庁) (原田)
- 2月12日 (愛知県庁) (宇治谷・原田)

[研究助成による出張]

- 12月22日 資料調査 (五島美術館、国立国会図書館) (下川・原田)
- 1月23日 資料調査 (奈良文化財研究所) (宇治谷)
- 3月20日 資料調査 (京都府絵具工房等) (下川)

展示・講演・講座

・常設展示

常設展示においては、年度末に展示ケース内およびスポットライトについて LED 照明への入替と、ガラス製の展示ケースに飛散防止フィルム、および採光箇所紫外線カットフィルムを貼る工事を行ったことによって、展示室の施設整備をすすめた。特に、ケース内の LED 照明への変更によって、ケース内全体が明るく見やすくなった。また、飛散防止フィルムは、照明の反射を抑えたものを採用することによって、より鑑賞しやすい状況となった。一方、ケース内に入っての作業経過の都合上、転倒防止のためのテグスを一部解除した箇所があるので、早急に復旧対応する予定である。

その他、解説に関して、主にパプア・ニューギニア地域の解説の一部修正補充と、写真パネルの配置等の入替があった。

・企画催事 1 (展示)

シルクロードをテーマにした絵画や彫刻を展示した「シルクロード室」と、世界の民族資料を展示した「地域エリア」の二部構成からなる展示室を活用し、春季展示は、書道部の協力を得て墨書作品と、中国の古代の木簡の再現作品を展示した。6月には、学内における国際学会の開催に対応し、中南米資料収集家の協力を得て「ラテンアメリカ資料展」を行った。夏季展示は、常設コレクション展示を毎年テーマ設定し、鑑賞と「ハンズ・オン」の両方を可能とするコーナー展示として、民族楽器のテーマ展示を行った。秋季展示は、写真展としてトルコの宮殿蔵の絵画に関する研究展示で、西アジア美術史研究者の研究記録をもとに、中国絵画の西洋への受容史を構図と歴史に触れたパネル展示を行った。冬季および翌年春季にかけては、特別講座の受講生作品の発表展示を行った。今年は絹絵に加えて板絵の二つの講座を開催し、それぞれの材料紹介および制作工程、歴史解説等を加えた。

平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月 31 日間の展示・催事は次のとおりである（3 月展示については 4 月までの展示期間を含む）。

・企画催事 2 (講演)

主催行事の春季と秋季の展示期間には、各テーマを設定し、複数の講師を招いて講演を行っている。今年度は、春季に「五感をめぐる生活文化の情景」、秋季に「比較芸術学講話 美の彩りとかたちのしくみ、東西美術交流に読み解く」を開催し、各連続三回にわたって

さまざまな分野の研究者を招き講演をした。その他、共催講演を他機関と実施し、学内外に文化交流をすすめるよう努めた。主催、共催の企画展示については次のとおりである。

・企画催事 3 (講座)

博物館における調査研究事業の一環として、開館初年度より開催している特別講座を今年度も実施。一般対象の日本画実技制作の講座を、日本画家で国宝絵画模写事業実績保持者により、作品制作を通じて伝統文化の天然材料と技法について、高度な大学専門教育内容を一般向けに教育普及する新たな試みである。講座は絹絵制作と板絵制作の二種である。講座開設にあたり、作品の制作工程を随時記録しホームページにアップし紹介していくとともに、完成作品を展示発表することで受講生の意識向上を図る。また今年度は制作工程の記録、歴史解説等をさらに補充して、今後の教材資料の作成にむけて工夫を加えた。

・展示

催事名：「墨に歌う砂漠の詩」

原田凍谷（書家、登統社会長）による書の作品展示

書道部学生による木簡作品展示

期間：2012年4月2日（月）～4月26日（木）

会場：民族資料博物館 多目的室、図書館 1F エントランス展示

出品：原田凍谷（書家、登統社会長）、書道部

担当：原田千夏子

入館者数：392名（一般、教職員、大学生）

（4月11日 出品者による作品解説開催参加者を含む）

4月の入学式シーズンにあわせて、書道部の指導講師と学生たちによる墨書の作品展示を開催した。テーマは、シルクロードをイメージし、中国大陸で古くから記録媒体として用



春季展示準備の様子



ギャラリートーク（作品解説）

いられてきた木簡を参考に、墨文字を木片に写し取ることによって再現を試み、当時の人びとの文字の感覚を自身の手から感じ取ってみた。また、古来では木簡を紐でつなぎ、長い手紙文として遠距離の伝達方法としても用いられてきたことから、本展示では、書道部員と講師からなる複数の人物によって木簡に墨文字を書き、相互に連結して一連の手紙文として形に再現してみた。また、その他に指導講師により、作家井上靖氏の大陸の紀行文からイメージする旅愁や悠久の歴史風景を想像し、作家の言葉を新たに書の内容にしあげてみた。

学生らは、2012年3月11日の東北大震災直後の時期で、隣人との絆の表現に対して様々に思いが寄せられていた世情もあり、若い感性の結びつきを表現というかたちにした意識もある。本展示の期間が大学においては卒業式、入学式シーズンに重なる時期にあり、門出と出会いを経験する学生へのエールとなれば、というささやかな願いから開催にあたった。展示期間中には、指導講師による展示室内において木簡の歴史や、書に用いる和紙や筆の種類による表現の特徴などについて、作品紹介を通じながら解説いただいた。(原田)



春季展示チラシ

催事名：「ラテンアメリカ展」

期間：2012年6月1日（金）～7月19日（木）

会場：民族資料博物館 多目的室

担当：宇治谷 恵（資料協力：三浦 鴻）

入館者数：765名（一般、教職員、大学生）

中部大学民族資料博物館は、世界各地の民族資料や歴史資料を通して、人類の営みの豊かな多様性を示す地域文化展示とシルクロード（西アジアから中国に連なる地域）資料を展示のベースとした人類の普遍的に見られる諸現象を対象とした通文化展示から構成さ



ラテンアメリカ展 展示風景

れている。このほか、多目的室では、学内の研究の成果を特定のテーマや内容で、総合的及び体系的に紹介する企画展示を年に数回開催している。

平成24年6月に学内で開催された「ラテンアメリカ学会」に協力及び関連して6月から7月中旬まで「ラテンアメリカ展」と呼ぶ民族・歴史資料展を多目的室で開催した。マヤやインカなどラテンアメリカ地域に関連する資料約130点が展示された。中米地域ではメソアメリカ文化の母と言われる巨石文化で有名なオルメカ資料やティティウワカン資料、遺跡で有名なマヤ文化の資料を展示した。南米ではアンデス地方を中心に、チャビン文化、王国で有名なモチェ文化、地上絵で有名なナスカ文化の資料が展示された。土偶や壺そして染織色など自然の顔料や染料の色彩は今日でもその色鮮やか

さに圧倒される。その色彩や形及び製作技術のなどを通して、古代から現代までの、ラテンアメリカ文化のモノづくりの発展、変遷を再認識することを目的とした展示会であった。普段の展示会とはことなり、会場には、この地域の専門家や研究者が多数訪ねられ好評をえたのが特徴であった。なお、この展示会にあたり、資料の出品や展示作業など東京在住のラテンアメリカ専門家である三浦鴻氏に多大な協力を得たことを明記する。(宇治谷)



ラテンアメリカ展チラシ

催事名：夏休み企画「楽器のはじまり ～その素材から」

期間：2012年8月5日（日）～9月7日（金）

会場：民族資料博物館 多目的室・1F エントランス

担当：原田千夏子

入館者数：483名

夏季には、収蔵資料を毎年テーマ別に紹介していこうと試みている。世界各国のさまざまな民族の生活文化に関連する資料の中から、昨年の「世界の自然気候」に続き第二弾の今年には「民族楽器の素材から知る」を基本に、「楽器のはじまり ～その素材から」と題して、収蔵資料の楽器の中から、骨や角、植物、木の実など材質を通じて観察する解説パネルや演奏写真を補充して展示した。



楽器体験コーナー



中学生見学風景

中部大学
2012 夏休み企画
展示解説「**楽器のはじまり**～その素材から」
いつもの展示資料のうち世界の民族楽器について
解説と写真を加えて紹介します

会期 8月5日(日)～9月7日(金)
会場 民族資料博物館 常設展示 (入場無料)
8月5日(日) 特別開館

○共催行事 8月5日「わんぱく世界旅 ～どんな国があるんだろう?」
: 現代教育科学系と芸術系の子どもたちによる博物館探検 (教育系ボランティアグループ支援) 代演 花井彩花 現代教育科学系

○短時間鑑賞 8月5・6・7日の3日曜とも午後1時～3時
「世界各地の民族楽器を試聴して、クワイで写真撮影しよう!」民族楽器を演奏してみよう!
: 国際文化学系オープンキャンパス分科会 (展示体験実習) 原田 中野裕幸 国際文化学系教員

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY AND CULTURE UNIVERSITY OF CHUO
〒466-8601 岐阜県岐阜市大田町1-1-1 中部大学民族資料博物館 (1階) TEL: 057-243-1111 FAX: 057-243-1112

夏季展示チラシ

また、今回の展示期間では、展示室の一隅に楽器に触れることのできるコーナーも設け、多くの見学者に体験してもらった。既製の加工された楽器だけでなく、人類が太古から楽器を通じて祈り、民族の歴史や宇宙を感じ伝えてきた生活の様子を感じる契機になればと考えた。

期間中は、大学のメインイベントの一つである、三日間にわたるオープンキャンパスが開催されたほか、地元の高校教員研修会や障がい学生の団体見学を受け入れる機会があり、児童から中高生、一般市民まで幅広い年齢層の来館者があった。今後も当館の収蔵資料を教材として活用できる企画を考えていきたい。(原田)

催事名：2012 秋季展示「写真展 トプカプ宮殿に秘蔵されてきた 謎めいた絵画作品に見る 15世紀・東西アジアの文化交流～シルクロードの終焉」

期間：2012年9月25日(火)～12月14日(金)

会場：民族資料博物館 多目的室

担当：宇治谷 恵 (企画：東西美術交流センター内 プロダクトデザイン K&M)

入館者数：1884名

中部大学民族資料博物館の多目的室では、学内外の民族資料に関する研究の成果を特定のテーマをもとに総合的及び体系的に紹介する企画展示を年に数回開催している。この展示は準備段階から学内の教員だけでなく外部専門家が積極的に関るようにしている。2012年秋に開催した企画展示はトルコ、イスタンブールにあるトプカプ宮殿に秘蔵されてきた、編集時期が15世紀と推定される約45冊の画帳から代表的な絵画作品を写真資料(約50点)として展示した。1970年代に日本人研究者により初めて調査・撮影された貴重な写真資料を展示することは国内の博物館では初めてのことであった。シルクロードの終焉時期といわれる15世紀の東西間の通商や文化的交流などのかたちやしくみを解析するうえでも、この絵画作品には図像、文様、色彩そして技法など謎めいた課題を多く示唆しており、今後のシルクロード研究に貢献するものと思われる。

この展示を開催するにあたり、杉村棟国立民族学博物館名誉教授、東西美術交流センター、全日本社会貢献団体機構はじめ多くに関係者の方々のご協力を賜りましたことに深く感謝する。(宇治谷)

中部大学民族資料博物館
2012年 秋季展示のご案内

「写真展 トプカプ宮殿に秘蔵されてきた『謎めいた絵画作品』を見る、
15世紀・東西アジアの文化交流～シルクロード(砂漠・草原の道)の終焉」

9月25日(火)～12月14日(金) 民族資料博物館 多目的室

協力：東西美術交流センター
10月17日(水) 秋季学術講演会第一回終了後 講師杉村棟氏により展示室にて解説予定

トルコ、イスタンブールにあるトプカプ宮殿に秘蔵されてきた約45冊の画帳の中に、編纂時期が15世紀頃と推定されるが何時、何処で、誰が、何のために制作したのか一切不明な絵画作品がある。

本展示ではこれらを1970年に日本人研究者たちが初めて調査・撮影された写真資料を紹介することでシルクロードの終焉時期といわれる15世紀に東西間の通商と文化的交流の状況として中国や日本の陶磁器類をはじめとした美術工芸品がどのように受け入れられていたのか初公開の貴重な作品写真約50点ありをもとに解明していきます。

4487(901) 愛知県豊田市民会館1200 TEL.0568-519193 FAX.0568-519194 E-mail minzaku@frc.chubu.ac.jp http://www3.chubu.ac.jp/museum

秋季展示チラシ



秋季展 展示風景

催事名：2012 特別講座受講生作品発表展示

「絹絵・板絵発表展示」

期間：2013年3月22日(金)～4月12日(金)

会場：民族資料博物館 多目的室、1F エントランス展示

担当：原田 (展示指導：下川辰彦)

入館者数：298名 (4月15日 指導講師による講評会参加者を含む)

9月より始まった「絹絵」と「板絵」の作品制作の講座の受講生による完成作品は、3月下旬より博物館において展示発表した。

初心者から経験者までさまざまな受講生に対して、指導講師はそれぞれの進行に応じて丁寧に指導したことから、各受講生は、決して容易とはいえない日本画の制作を、一定期間にわたって興味関心を持って高い学習意識を維持しながら参加した。特に、絹絵における裏彩色や、板絵における箔や胡粉の扱いなど、他の文化施設では受けることが稀な技術を知る機会是非常に貴重である。しかし、それだけではなく、絵画の制作には、描き手の心情を技術に託していかに表現を創り上げていくかという点で、作品と向き合う姿勢、精神性を保持し、内面を高めていくことがいかに重要であるか、制作を通じて講師が伝達していたことが印象的であった。本講座の制作工程、および素材研究に関する報告については、当館の調査研究事業の一環として別にまとめる予定である。また、本講座の第三弾として、25年度においても開催することとなった。(原田)

特別講座 作品展チラシ



参考作品と日本画の材料紹介コーナー



1F エントランス展示
(絹絵、板絵の歴史解説 制作工程紹介)



特別講座作品展 展示風景

・講演

催事名：春季連続講演「五感をめぐる生活文化の情景」

第一回「酒飯論絵巻 一風俗画の原点一」

講師：並木誠士（京都工芸繊維大学大学院教授）

司会：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館外部専門者）

日時：2012年6月20日（水）15時30分～

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：60名

中部大学民族資料博物館
2012 春季連続講演
五感をめぐる生活文化の情景
博物館をして資料を通して

会場 | 中部大学リサーチセンター

第一回 **6/20** (水) 15時30分～
講演 **酒飯論絵巻 一風俗画の原点一**
講師：並木 誠士

第二回 **7/5** (木) 17時30分～
講演 **喫茶文化と博物館**
講師：熊倉 功夫

第三回 **7/19** (木) 16時00分～
講演 **ミュージアムとは何か 一第二のブームをうけて一**
講師：船橋 行

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY AND CULTURE

春季連続講演チラシ（表）

中部大学民族資料博物館
2012年度 春夏の行事のご案内

「メソアメリカ資料展」
6月1日（金）～7月6日（金） 民族資料博物館 多目的室

文化講演（国際人間学研究所・民族資料博物館共催）
6月6日（水）15時30分～ 中部大学リサーチセンター2階 大会議室
「興福寺の天平文化と空間再構成と国宝鑑 一文化史の新しいデザインにむけて一」
講師：金子 博樹（興福寺研究センター・東洋文化研究所長） 日本文化史・仏教史
氏名：金子博樹 所属：国際人間学研究所 電話：0565-31-3220

2012 春季連続講演（詳しくは表裏参照）
「五感をめぐる生活文化の情景 博物館をして資料を通して」

第一回「酒飯論絵巻 一風俗画の原点一」
6月20日（水）15時30分～ 中部大学リサーチセンター
講師：並木誠士（京都工芸繊維大学大学院教授） 日本文化史・民俗学
氏名：並木誠士 所属：民族資料博物館外部委員 中部大学大学院教授

第二回「喫茶文化と博物館」
7月5日（木）17時30分～ 中部大学リサーチセンター
講師：熊倉功夫（静岡文化芸術大学学長） 民俗学
氏名：熊倉功夫 所属：民族資料博物館外部委員

第三回「ミュージアムとは何か 一第二のブームをうけて一」
7月19日（木）16時00分～ 中部大学リサーチセンター
講師：船橋行（国語学研究所助教授） 文化人類学
氏名：船橋行 所属：民族資料博物館外部委員

夏休みの定設資料解説テーマ展示「世界の文化と音（仮称）」
6月1日（日）～9月7日（金） 民族資料博物館 常設展示「世界」
6月15日は閉館ですが、オープンキャンパスにより特別開館します。
本館のホームページ上の「観覧ガイド」にて、
民族資料博物館の観覧や、学内グループの共同行事も予定しています。

中部大学民族資料博物館
MUSEUM OF ETHNOLOGY AND CULTURE

（裏）催事案内

尾張徳川家の御膝元として、武家文化の名残が強いこの地域においては、昔から芸事が盛んなところといわれている。徳川美術館学芸員の経歴もある日本美術史家である並木教授は、狩野派をはじめとして近世風俗画に関する気鋭の研究者の一人である。今回の講演では、風俗画そのものの成り立ちをふりかえりつつ、絵画が実際にどのように鑑賞されて



春季連続講演第一回

きたのか、絵画をとりまく人々の生活観、宗教観を含みながら環境全体へと観点を移していく内容から、学生から地域市民を含む聴衆にとっては、文化の育成される土壌を考えるという意義深い時間となった。(原田)

催事名：春季連続講演「五感をめぐる生活文化の情景」

第二回「喫茶文化と博物館」

講師：熊倉功夫（静岡文化芸術大学学長）

司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

日時：2012年7月5日（木）17時00分～

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：82名

平成24年7月5日、午後5時30分より、中部大学リサーチセンターにて、現在、静岡文化芸術大学・学長の重責を勤められており、さらに茶道史及び飲食文化など幅広い日本文化研究における著名な研究者である熊倉功夫先生を公務多忙ななかお招きして、上記のような連続講演会が催された。



春季連続講演第二回

開催の目的は、茶の湯をはじめとする飲食文化研究の最前線を紹介してもらうこと及び

博物館が担うべき役割を示唆していただきたいことであった。民族資料博物館は開館してまだ1年であり、熊倉先生の知識や経験をすこしでも当館の展示や資料収集および博物館活動にいかしていきたい、さらに著名な先生の講演をとおして、当館の活動を多くの市民に理解してもらいたいという願いからであった。

講演の内容は、静岡県掛川市や埼玉県入間市のいわゆる「茶の博物館」の設立や現状、茶の起源をめぐるアジアの茶の湯文化、そして日本の喫茶文化の変遷など、茶をめぐると多様な飲食文化の話題と研究内容の紹介があり、最後にこれからの博物館のあり方についても貴重な提言をいただいた。なお、講演会終了後、関係者ととも洞雲亭と呼ばれる茶室に移動し、見学及び懇談することとした。

講演会場は満席の参加者で熱気に溢れていた。この講演会を実施した成果は、将来、かならず民族資料博物館の展示や活動に活かされるであろう。(宇治谷)

催事名：春季連続講演「五感をめぐる生活文化の情景」

第三回「ミュージアムとは何か 第二のブームをうけて」

日時：7月19日(木) 15時30分～

講師：講師：端 信行（兵庫県立歴史博物館館長）

司会：和崎 春日（民族資料博物館館長）

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：35名

アフリカの文化人類学研究者として研究をスタートした端氏は、近年、その豊富な経験と実績、博物館長としての立場から、都市文化における美術博物館の役割の重要性を訴え続け、さまざまな地域の文化的復興に貢献されている。当館においても、この点は課題の一つであり、地域に開かれた教育施設として、本学独自の大学博物館像を作り上げていくために指導を仰ぎたくこのたびお呼びした



春季連続講演第三回

いである。とはいえ、端氏と私は旧知の仲で、若い時分は遠いアフリカの大地で熱く研究談義を交わした懐かしい思い出を共有している。年代を重ねていくごとに周囲からは、個人研究者のみならず、大学、地域、はては日本人、世界の住人としてのグローバルな意見を求められることが増え、責任を改めて実感する日々だが、そのような機会のたびに端氏の存在が大きな拠りどころとして助けられている。(和崎)

催事名：秋季連続講演「比較芸術学講話 美の彩りとかたちのしくみ、東西美術交流に読み解く」

第一回「秋季展示に寄せて トプカブ宮殿秘蔵絵画にみる 15世紀 東西アジアの文化交流」

日時：2012年10月17日(水) 15:30～

講師：杉村 棟（国立民族学博物館名誉教授、総合研究大学大学院名誉教授）

司会：宇治谷 恵（民族資料博物館 副館長）

参加者数：90名

平成24年10月17日、午後3時30分より、中部大学リサーチセンターにて、国立民族学博物館名誉教授杉村棟氏によって、民族資料博物館多目的室で公開されている企画展の関連事業として講演会が開催された。杉村先生はイスラーム地域を中心とする東西美術交流、特に絨毯、陶磁器そして絵画などをから見たシルクロード文化研究の第一人者である。お住まいの神戸から多忙なかお招きして、上記のようなテーマで様々な視点からのお話

を聴くことができた。

お話の内容は、まず始めに、近年のイスラーム研究及び中東学会やオリエント学会等のわが国におけるシルクロード研究の動向が紹介された。次に本題としてのイスタンブール、トプカプ宮殿についての歴史や概要、本題である秘蔵されている15世紀に編集された絵画作品の由来、伝播、そして図像や文様など多様な話題が提供された。さらに、中国との関りだけでなく、わが国の絵画や刺繍などへの影響までも展開された。特に鷹狩り図像については興味深いものであった。講演終了後には展示室に移動してギャラリートークも開催することができ、先生のシルクロード研究に対する造詣や熱意を身近で感じることもできた。

本題とはずれるが、先生のお話のなかに、最近の若い研究者はあまり海外での学会やフィールドワークに参加しないことが気になりとの指摘があった。講演会場は多くの参加者で熱気に溢れていたが、若い学生諸君の数が少ないことが気になったのである。(宇治谷)



1F エントランス展示 (講師著作紹介)

中部大学民族資料博物館 2012 秋季連続講演 中部大学

比較芸術学講話

美の彩りとかたちのしくみ

東西美術交流に読み解く

一回講演 10/17 [水] 15時30分～

「秋季展示に寄せて～トプカプ宮殿 秘蔵絵画にみる15世紀 東西アジアの文化交流」

講師：杉村 様 (イスタンブール大学、文学、美術史)

二回講演 11/14 [水] 15時30分～

「色彩と脳 一目の不思議世界」

講師：小町谷 朝生 (総合学)

三回講演 11/28 [水] 15時30分～

「美のかたち(フォルム)」

講師：川上 賢 (文学、比較芸術学)

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

中部大学民族資料博物館

MUSEUM OF ETHNOLOGY AND CULTURE, CHUO UNIVERSITY

〒466-8601 名古屋市中区千石1-1-1 TEL:052-655-1111 FAX:052-655-1114 E-mail: mizuokub@foc.chuo-u.ac.jp

秋季連続講演チラシ



秋季連続講演第一回

催事名：秋季連続講演「比較芸術学講話 美の彩りとかたちのしくみ、東西美術交流に読み解く」

第二回 「色彩と脳 ～目の不思議世界」

日時：2012年11月14日(水)15:30～

講師：小町谷朝生 (東京藝術大学名誉教授、流行色学会理事長)

司会：前田富士男（国際人間学研究所 所長、人文学部コミュニケーション学科教授）

参加者数：87名

色彩学の第一人者である小町谷氏は、色彩と人間の知覚の関係性について、先史から古典、さらに現代までの幅広い時代にわたる芸術作品を通じて人間の深層をみつめる研究をされている。そのジャンルは、絵画、文学、宇宙工学、自然現象など多岐にわたる。私たちの身近な生活空間に存在するものたちが、光や影の見え方に応じて受け取る印象が異なる理由や、またそうした記憶が国や地域の文化の土壌に深く関わっていることを発見するとき、自分のルーツ、はてはDNAの根源にまで遡って生命誕生の神秘に行き着く。小町谷氏の語る問題は、この世界がどれほど魅力に溢れた不思議であるかを提示してくださる、そんな「ロマン」が根底にあるところに、多くの人々が惹かれるところなのだろう。



秋季連続講演第二回

その豊富な話題性と英知の姿は、若者に向けて知の魅力を発信するパワーとして、高校生の教科書や大学入試問題に採用されるなどして、専門分野に留まらず、これまでに幾度も社会全体から牽引する立場として期待されてきた。そのような「知の巨匠」たる小町谷氏の息吹を少しでも本学の学生諸君たちにも感じてもらいたい、と考へ博物館と本研究soの共催企画というかたちの講演で語っていただくよう切望した。

膨大で密な小町谷氏の研究世界をわずか一時間程では表わすことは到底できず、聴衆の方々も物足りなさを感じられたかもしれない。これからは、氏の多数の著書を手にとっていただき、奥深い旅に足を踏み入れてみてはどうかとお勧めするしだいである。（前田）

膨大で密な小町谷氏の研究世界をわずか一時間程では表わすことは到底できず、聴衆の方々も物足りなさを感じられたかもしれない。これからは、氏の多数の著書を手にとっていただき、奥深い旅に足を踏み入れてみてはどうかとお勧めするしだいである。（前田）

催事名：秋季連続講演「比較芸術学講話 美の彩りとかたちのしくみ、東西美術交流に読み解く」

第三回 「美のかたち（フォルム）」

日時：2012年11月28日（水）15：30～

講師：川上 實（元愛知県立芸術大学学長、現同学名誉教授）

司会：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館外部専門者）

参加者数：63名

文化を比較する、という研究の観点を持つことは難しい。なぜなら、一つの分野を深く追究することさえ難しいからである。しかし、あえて比較芸術学の分野の重要性を目指し

た学派が東京藝術大学において生まれ、本講演の講師である川上氏もその土壌で豊かな知性を養われた一人である。ドイツ美学をボン大学にて研鑽され、言葉において客観的に芸術作品を分析するヨーロッパの芸術鑑賞のメソッドを徹底的にトレーニングされた氏は、留学から帰国後、愛知県立芸術大学に着任され、現在まで東海・中部地域の芸術振興のために長い期間にわたって貢献されてこられた。



秋季連続講演第三回

本講演では、東洋と西洋の美術作品の、建築、絵画、彫刻、工芸、庭園などの多様な芸術分野をみていきながら、そこに共通した特徴、美の「規範」を通じて、比較しながらそれぞれの独自性の源を確認するという方法をとる。終始講演では、氏のやわらかな口調のなかで、芸術に対する憧憬、敬意がにじみ出ていて、研究という固い表現ではなく、やはり美とは「味わう」ものであるところに、楽しみとして、人間が心から感じとることのできた瞬間の感覚を喜びとして再認識させてくれる。

かくゆう私も、川上氏は県芸大の在学中の恩師であり、大先輩として、私が作家として生きる苦楽をぶつける相手であり、また多くの作家が良き理解者として支えられてきた。氏の抱く芸術へのかわらぬ静かな熱意が講演中も感じられ、かつての懐かしい学生時代の講義を想起する心持になり、嬉しくもあった。

川上氏は本学園とはかねてより縁もあって、当館の立ち上げ当初より助言指導を賜ってきている。本学が近隣地域とより発展した文化交流をすすめていくために今後も教示いただきたいと思っている。(下川)

・講座

催事名：特別講座「古典絵画（絹絵／板絵）を描く」

期間：2012年9月19日～2013年2月20日（絹絵 全10回／板絵 全8回）

講師：下川辰彦（日本美術院特待・民族資料博物館外部専門者）

担当：原田千夏子

昨年度にひきつづき、一般対象の実技制作講座として「絹絵」の教室を開講するほか、「板絵」の教室を新たに開講した。絹絵、板絵はともに日本画における伝統的な技法を要する絵画の種類で、その名のとおり、紙に描くのではなく、絹や板を基底材として扱うことになる。顔料や墨をこれらの基底材に定着させるためには、そのための技術を駆使する必要がある。古代から近世までの長い時代を経て伝授されてきた伝統技法はかつて門外不出の流派による師から特定の弟子へ口伝伝承による伝達だったために現代においても特殊とし

て一般には知られる機会が少ない。わずかに、日本画家たちによる個別の素材研究や、古典作品の模写活動によって研究されてきた。

顔料や墨、膠、和紙などの天然の材料を素材として用いる日本画の事例をもとにして、当館では、さまざまな素材を研究するよう試みている。収集しているさまざまな民族資料をどのように学んでいくか模索するなかで、その構造や意味を理解するために「素材」を基本に考えていく。本講座は、当館の調査研究活動の一環として位置づけ、今後の比較文化研究に役立てていくとともに、一般に向けて大学教育の普及を試みて地域の文化発展の貢献の一助になるよう努めていきたい。なお、今年度は、全国博物館学協議会西日本部会による研究助成をうけ、素材研究をテーマに日本画の伝統的な材料と技法に関する考察を経過報告として、当館の調査研究活動の一環として一般向け講座における教材資料への応用を見据えた内容をまとめ報告する予定である。(原田)



特別講座（板絵）制作風景



特別講座（絹絵）制作風景

出版事業

- ・中部大学公式ホームページ「催事報告」「申請書」追加作成（6月）
- ・「中部大学民族資料博物館 収蔵資料目録（2011）」（5月）
- ・「中部大学 春日井キャンパス 公共スペース設置の作品一覧（2011）」（5月）
- ・中部大学民族資料博物館「2011年度 年次報告 第1号」（5月）
- ・中部大学民族資料博物館「2011年度 調査報告書 第1号」（5月）
- ・中部大学民族資料博物館「2011 秋季行事 連続講演、展示 報告冊子」（5月）
- ・中部大学民族資料博物館「2011 特別講座 古典絵画 絹絵を描く 制作工程 作品記録」（5月）
- ・中部大学民族資料博物館「ニュースレター 3号」（10月）
- ・中部大学民族資料博物館「ニュースレター 4号」（3月）
- ・中部大学民族資料博物館「H25年度 開館日カレンダー」（3月）

資料収集

常設展示室の地域研究エリアのうち、アメリカ地域の中南米に関連する資料について、6月開催の展示において借用した資料所蔵者より、展示終了後に展示資料のうち34点を寄贈として提供があった。その他に、オセアニア地域に関連する資料について、外部から寄贈資料を受けた。点数は次のとおりである。

寄贈資料

計 50 点

内訳：

- ・アメリカ関連資料 34点 (個人)
- ・オセアニア関連資料 14点 (個人)
- ・西アジア関連資料 1点 (個人)
- ・東南アジア関連資料 1点 (個人)

資料修復・資料保存環境等

資料修復については、次の資料の補正を行った。

- ・東アジア地域に関連する資料で展示・衣装体験に活用した韓国の民族衣装、チマ・チョゴリ2点について、ほつれを補縫した。(11月)
- ・オセアニア地域に関連する資料で、「仮面」の貝の装飾の欠損部に類似種の貝を充填した。(3月)

資料保存環境については、展示室、収蔵庫、1Fエントランス共有展示ケースに、全15台の温湿度計測機を設置し、データ収集を開始した。

資料保存、管理方法については、これらの統計結果をもとに検討していく予定である。その他、防虫管理については、予備的措置として、文化財専用防虫剤を投入している。また収蔵庫の使用ルールをスタッフ間において統一し、定期的な清掃を心がけている。IPM（生物調査）調査を平成25年度に実施予定。

調査研究事業

<宇治谷 恵>

題目：「郷土館めぐり・中部大学民族資料博物館」
(地域社会 No.66 2012.3.31 地域社会研究会 所収)

<原田千夏子>

企画：「平成24年度 特別講座「古典絵画（絹絵・板絵）を描く」

(絹絵 全10回、板絵全8回 補講各1～2回)

実施：9月19日～2月20日、水曜日13:30～16:30(本学10号館 106Gゼミ室)

講師：下川辰彦

(日本美術院特待、国宝法隆寺金堂壁画模写事業等、古典絵画研究の有実績者)

対象：一般 計25名(公募抽選) ※絹絵10名、板絵15名

内容：民族資料博物館 調査研究事業としての試み「素材研究」をテーマとして
日本画を通じて、伝統的な天然材料を使用してきた絵画材料について、制作を通じて
その特徴や特殊な性質を体験する。

目的：本講座における内容は、日本美術史における古代料紙装飾、および近世の琳派にみる、墨の
「たらし込み」や彩色技法について、現代の材料における再現と実験を制作を通じて学ぶこ
とで、日本の伝統文化において継承されてきた美の表現を、感性を通じて認識することを目
的とする。そのため、作品を完成の域にまで高めて指導することによって、高い学習意識を
引き出すよう図る。

方法：伝統的な技法の説明指導、受講生の経験や進行に応じた指導、また、作品や材料の背景の歴
史を解説する、などの、質の高い指導内容を盛り込みながら、説明を実際に手本を提示しな
がら理解させていく方法をとる。

制作のねらい：絹、杉板という基底材の異なる素材に対し、顔料、絵具、墨、胡粉、箔の定着を、
岩石、染料、貝殻、金属などのそれぞれの成分の特徴を学びながら、どのような手順で行う
か、また色彩による平面構成の構造を合わせて考慮しながら制作を進行する、空間構成への
理解度を深める。

制作過程：絹絵

1 絹貼り

絹の性質を知る。

木枠に絹を貼る。皺にならないように注意して貼る。
木枠ののりしろ分を多めにとり「捨てのり」で定着させる。

2 礬砂を引く

刷毛で絹の表面で礬砂を引く。
具墨を作る。
線描の練習とともに、画面構成を考える。

3 墨を作る

膠、墨、胡粉、水
筆線の練習をする。墨のなめらかさ、かすれを試す。
筆先を慎重に運ぶ。的確に細い線を描くことができるか。
下絵を作る。紙を貼ったパネルに下絵を描き込む。
形を確認しながら、大切な線を確認していく。

4 裏彩色を学ぶ1

画面の表の構成を見ながらモチーフの配置を考え、裏面の箔の位置を決める。
裏箔
裏面に金銀箔を貼る。
砂子を蒔く。胡粉を薄く重ねて塗る。
絹地という基底材の性質を考え、厚塗りを避け、薄い彩色を施す。

5 裏彩色を学ぶ2

画面の裏面から彩色を施す。
複数の色を重ねて、平面の空間を構成によって作り上げる。
二色目を刷毛で入れる。画面全体で色面校正を考えながら、刷毛で色を引いていく。
三色目を入れる。一色目、二色目の色の関係性をみながら、透明感を保つように色を合わせる。

6 裏箔を学ぶ（練習）

画面の裏から、竹はさみで箔を置く。
空気に触れると破れやすいほど繊細な箔。慎重に扱う。
絹目を通して画面の表面には箔の輝きが透けて見える。表面の彩色と重なりにより、美しい画面を総合的に作る。

7 胡粉を用いてモチーフの立体的な表現を表す

モチーフの形を、下絵と見比べながら形を再認識して描く。
胡粉を用いてハイライトの位置を考えて入れていく。
下絵を選びとった心情を個々で思い起こす。

8 彩色を施す（画面構成）

細緻な箇所にも色や線を入れていくために、筆先を洗い整えておく。

画面全体の構成を考えながら、主体となるモチーフに色を入れていく順、色の濃淡、描き込みの強弱、抑揚の度合いなどを考える。

ぼかしと薄い胡粉を何度も塗るほど、色の透明感が増す。画面全体への客観的な俯瞰視をする意識を持つ。

9 彩色を施す(画面構成2)

墨による「ぼかし」と「たらし込み」

モチーフに適した色調をひきたたせるを描くための、微妙な諧調のバランスを考え、自分自身の色を作る。

画面におけるモチーフの存在感を表現するために、筆をさらにすすめる。

薄い重ね塗りの手間を惜しまず幾層にも重ねる。

10 彩色を施す(画面構成3)

下地に施した箔や砂子との調子をみていく。

切箔(野毛)の扱い。

黒箔を蒔く。

画印を押す。

制作過程：板絵

1 板の性質を知る

杉板の性質を知る。

画面を特殊な薬品でコーティングする。

木目を活かして画面構成を考える。指導講師により、切箔を用いた参考事例。

2 下絵を作る

墨による下絵

下絵を描く。

墨の微妙なぼかしを入れ、本画における色調のバランスを考える。

3 金箔、砂子を蒔く

板の防霉と灰汁を表面に出さないために、特殊な化学薬品を混合して礬砂のような役目をするものを引き、コーティングする。

砂子、切箔の画面上でのバランスを考える。古の料紙装飾も参考にする。

薄い濃度の膠を付けた筆で押さえ、定着させる。

4 胡粉を塗り重ねる

モチーフに薄い胡粉を塗り重ね、形をとっていく。

杉板の灰汁を押さえるためにも胡粉を引いておく。
胡粉を何度も塗り重ねることで、次の彩色に効果が現れる。
面相筆で、丁寧に木目を意識して塗り重ねる。
基底材となる板の木目に対する、砂子と胡粉の関係性を考える。

5 形をとる（造形1）

特殊な胡粉と盛り上げ胡粉を混合したものを使う。
「たらし込み」のための地塗りをする。このとき、モチーフの「らしき」の形を考える。
彩色の透明感を表現するために必要な工程。
板地、箔、胡粉、彩色の総合的な画面構成を念頭に調整する。

6 形をとる（造形2）

墨線的で線描し、モチーフと背景との遠近の関係を浮き上がらせ、平面空間の中にも立体的な表現を表す。
額とのバランスも考えて配置と彩色の入れ方を考える。
モチーフの形を墨線によって立体感を表現する。

7 形をとる（造形3）

金泥を用いて、モチーフのハイライトを入れることで、さらにモチーフの存在をわずかな光によっても際立たせる。
切箔、砂子の間、金泥を用いて、形を整えるよう、丁寧に筆を入れていく。
箔の光沢の効果をみつつ、彩色の筆を入れていく。

8 砂子の蒔き方の調整

彩色を入れた後に、再度、画面全体における箔と彩色とのバランスを考え、修正する。厚くなりすぎた箔や泥の箇所をこすり取り、板の木目と彩色の関係性の微妙な美しさをどの諧調で表現するかを考える。
黒箔を蒔く。
名入れ。
画印を押す。

成果：1) 受講生全員の作品の完成、および発表展示

【作品展示入館者数】 2013年3月22日～4月12日（15日講評会含む）

：開館日数19日間 入館者数計298人

- 2) 講師の賛助出品、参考見本作品、共同研究成果としての国宝模写作品の展示
- 3) 制作材料の紹介展示（天然顔料、箔、胡粉、墨、筆、刷毛など）

- 4) 制作工程のまとめ、ポスター印刷展示 (担当学芸員作成)
- 5) 美術史の観点より、絹絵の歴史および板絵の歴史の一部抜粋をまとめポスター展示 (担当学芸員作成)

※なお、上記の制作工程を通じて考案した色面構成について、顔料および染料の扱いに関する素材研究については実験工程の一部を「平成24年度 調査研究報告」において執筆報告予定である。

アンケート集計結果

絹絵受講生：受講数 計11名 (うちアンケート提出数10名)

板絵受講生：受講数 計14名 (うちアンケート提出数14名)

アンケート提出者24名 (受講者数25名中)

[全体の感想]

関心を深めた・・・23名

普通・・・1名

[その他：関心を持った点、講師指導、事務対応、今後の希望等についての概要]

提出者の多くが、作品の具体的な制作過程に関心を強く持ち、伝統的な技法を駆使した日本の絵画の天然素材からなる紙や胡粉、墨や、金箔や顔料等の扱いの難しさを実感するとともに、講師の適切な指導を通じて作品の域に高めるよう近づける努力をすることで、表現の美的な特徴を直接体験し、満足している様子とその経緯がうかがえる。

受講生の多くが今後の続編となる企画を期待し継続受講を希望する意見が多数を占めた。

(添付資料参照)

[付記]

受講生の傾向について(聞き取り等による) ※注：複数該当者あり (延べ人数)

- ・他所の日本画教室または洋画教室を指導する者 (3名)
- ・日本画を他所で20年以上継続して学んでいる者 (4名)
- ・日本画を他所で10年以上継続して学んでいる者 (7名)
- ・教員経験者 (2名)
- ・外部の美術館の友の会会員、他大学研究室ボランティア (3名)
- ・本学の聴講生 (6名)：うち日本画初心者3名
- ・在校生の父兄(1名)：日本画初心者
- ・本学の教職員の家族 (2名)

参考：

下川辰彦「日本画の古典技法と素材研究」

(下川辰彦『游歴過眼』風媒社 2012年 145～180頁所収)

下川辰彦・原田千夏子／愛知県立芸術大学日本画専攻研究室

共同研究：古典絵画模写研究「扇面古写経絵図」「源氏物語絵巻（柏木）」「平治物語絵巻（六波羅行幸巻）」技法研究及び作品制作

(2008～2009年度 中部大学特別研究費 A 採択：助成研究)

原田千夏子「大学博物館の役割としての「素材研究」の試み—実技制作を通じた伝統文化理解のための教育普及活動「特別講座（古典絵画）」の実践—」

(「中部大学民族資料博物館 平成23年度 調査研究報告」2012年5月 15～10頁 所収)

教育普及に関する活動

授業における利用

- 5月12日 国際文化学科 スタートアップセミナー 30名
- 5月31日 国際文化学科 スタートアップセミナー 28名
- 7月3日 博物館概論(千葉) 30名
- 11月27日 博物館学資料論(千葉) 20名

その他の教育普及活動

- 6月6日 講演会「興福寺の天平文化空間再構成と国宝館——文化史の新しいデザインにむけて」(共催)(国際人間学研究所による講演会開催)
- 7月25日 名瀬地区家庭科研究会開催(会場提供、副館長、スタッフで概要と収蔵資料紹介)
- 8月28日 チャレンジチルドレンのための小さな冒険プログラム2012(会場・体験資料提供)
- 9月19日～2月20日 特別講座「古典絵画(絹絵)を描く」全10回の開催実施(一般対象)
- 9月19日～2月20日 特別講座「古典絵画(板絵)を描く」全8回の開催実施(一般対象)
- 10月26日 愛知県博物館協会研修会(会場提供、施設紹介および見学)
- 11月13日 地域グループ(神屋団地 花よう会)見学への解説
- 11月15日 高校課外授業(会場提供):国際関係学部教員によるグループ見学学習実施

催事名:講演会「興福寺の天平文化空間再構成と国宝館——文化史の新しいデザインにむけて」
(共催:国際人間学研究所)

講師 金子啓明(興福寺国宝館館長/東京国立博物館名誉館員)

期間:2012年6月6日(水)

会場:中部大学リサーチセンター 2階 大会議室

担当:前田富士男(国際人間学研究所所長、コミュニケーション学科教授)

入館者数:50名(一般、教職員、大学生)

古都・奈良の中心にあって1300年の歴史をもつ興福寺では現在、中金堂復興を中心に天平伽藍を再構築し、<阿修羅像>で知られる国宝館を美の仏殿として機能させる大規模な計画が進捗している。これは、歴史的な建築環境や文化財の保存にとどまらず、より能動的に文化の記憶を再創出しようとする他に例をみない新しい空間デザインの試みである。この計画の中心を担う金子啓明氏を迎え、この重要な試みを紹介していただくこととした。

金子啓明氏は、東京国立博物館の元・副館長で、わが国の古代・中世彫刻の著名な研究者である。しかし美術史研究を学界内の出来事に閉じ込めず、展覧会の企画・運営を通じて、宗教芸術作品としての仏像の本質をひろく一般市民の方々に問いかける優れた展示を実現してきた業績でも名高い。「仏像 一木にこめられた祈り」展(2006年)、「国宝 薬師寺展」(2008年)、そして国内全体で約200万人の入館者を迎えた



共催講演会

「阿修羅展」(2009年)は、たんに今後も凌駕されることのない記録的な展覧会であるのみならず、近現代の日本人がともすると見失いがちな「彫刻」作品、とりわけ聖なる「宗教彫刻」に照明をあてた「場」の構築としてきわめて意義深い。

本講演は、おおきくわけて二つの焦点からなる。第一は「阿修羅展」に現れた問題であり、第二は興福寺の文化空間再構成である。

阿修羅展にこれほど多くの人が集まったのは、金子氏によれば、阿修羅像の持つ魅力そのものに起因する。阿修羅は本来インド系の荒々しい軍神だが、興福寺の阿修羅は、愁いを帯びた複雑な少年の表情をうかべ、見る者に祈りをよびかける存在にほかならない。現代の人間も、祈ることができる、祈りを受けとめてもらいうる——阿修羅の呼びかけは結局、ここに原点を持つにちがいない。金子氏は、仏像の魅力、こうした芸術の力強さをあらためてわれわれも共有することが重要ではないか、と強調され、そのための展示における実際の工夫を詳細に紹介された。

この金子氏の姿勢は、そのまま講演の第二の焦点、つまり興福寺の文化空間再構成に連続する。ここでも、たんに文化財の保護や原状の復元が大切なのではなく、奈良という文化空間、平城京東端の興福寺という場を「再聖化」し、天平文化空間を蘇生させる努力が重要なのである。展覧会でも観光でも、作品—鑑賞という「関係」ではなく、作品を生きる、祈りを託すという「行為」を本質視するのが金子氏の基本的な姿勢にほかならない。講演ではヴァーチャル・リアリティ映像も駆使しつつ、新しい文化空間デザインが生き生きと提示され、貴重な講演会となった。(前田)

催事名：名瀬地区高等学校家庭科研究会

テーマ：中部大学民族資料博物館所蔵の民族衣装紹介

会場：中部大学民族資料博物館 多目的室

日時：2012年7月25日9:30~12:30

参加者：20名(名古屋市、および瀬戸市の高校家庭科教員)

担当：宇治谷 恵、佐藤尚子



研究会における館の概要紹介



民族衣装の概要紹介

名瀬地区高等学校家庭科研究会は毎年夏に開催されている。今回は当館が選ばれた。はじめに会長である愛知県立名古屋南高校校長の久野保彰先生から開会のあいさつがあり、次に宇治谷恵副館長から挨拶と資料から学ぶことの大切さについてなどの話があった。次に佐藤から「中部大学民族資料博物館所蔵の民族衣装紹介」というテーマで下記の順に話をした。

- [1]衣服の必要性 体毛が減少したため体を守るための衣服が必要になった。
- [2]中部大学民族資料博物館所蔵の民族衣装紹介
 - (1) 衣服の原点---水草などの自然素材をそのまま使用し簡単な加工をする。
 - (2) 長方形の布類---体に巻く、かける
 - (3) 貫頭衣---長方形または正方形の布を使用。頭の部分に穴をあける。
 - (4) ワンピース
 - (5) ブラウスなどの上着とスカートまたはズボン
 - (6) 上着 (ガウン)
- [3]染料 貝紫染め (貝の分泌液を使用) とコチニール染め (ウチワサボテンに寄生するコチニールカイガラムシを使用) を利用した当館所蔵のメキシコの縞巻きスカートを紹介
- [4]衣装が発信するメッセージ
 - ①仕事や学校などの所属、男女別、警官
 - ②東アフリカのカンガ スワヒリ語のメッセージをプリントした布
- [5]ケニアの牧畜民と農耕民の装いの変容
マーサイ (牧畜民) はなぜガラスビーズで装うようになったか。
- [6]創られた伝統
歴史学者ホブズボーム (Eric Hobsbawm) の「民族文化」についての考えを紹介した。彼は、「近代化」以前には、均質な「民族文化」は存在しない。「民族文化」は、資本による大量生産と市場形成、マスメディアによる流通と均質化の結果、創られたとしている。

最後に、前もって先生方と打ち合わせをした時に佐藤の調査地であるタンザニアの食事情についても聞きたいという要望があった。調査地キリマンジャロの山麓の村の主食の一つであるウガリなどについて話をした。

以上の話の後に館内を案内しながら展示してある民族衣装の解説をした後チマチョゴリやアラビアの男性用衣装などを試着していただいた。

7月末に久野先生と担当の廣瀬先生からお礼状とアンケートの結果を頂いた。「写真でしか見たことのない民族衣装を解説付きで見たり着たりすることが出来てとても良かった」「ケニア、アフリカの文化についてわかってよかったです」「大変楽しくお話をして下さいとても良かった」などのアンケート結果を頂き、今後の励みとなった。(佐藤)

催事名：「わんぱく世界旅 ～どんな国があるんだろ」

8月5日開催 あつまれ！わんぱく隊 博物館見学（体験学習）

日時：2012年8月5日（日）14：00～

会場：会場：民族資料博物館 多目的室・展示室

担当：花井 忠征（幼児教育学科教授 現代教育学部フレンドシップ活動代表）

参加者数：約 100 名

去る8月5日に、第4回フレンドシップ活動“わんぱく隊”が現代教育学部棟を中心に行われた。参加した66名の子どもたちは、民族資料博物館で世界一周クイズラリーに挑戦した。

博物館を使っでの活動は今年で2回目。幼稚園年長児から小学校3年生までとまだ幼い子どもたちに博物館に興味を持たせ、魅力をいかに伝えるかを学生たちは時間をかけて念入りに計画した。今年は「わんぱく世界旅行 ～どんな国



わんぱく隊 見学

があるんだろ～」というテーマにしたがって、現代教育学部の70号館にダンボールで作った飛行機を用意し、子どもたちはそれに乗って博物館のある三浦記念図書館前まで楽しく並んで移動した。図書館前広場には風船のアーチで作った博物館入国ゲートがあり、パイロットとCAに扮した学生が子どもたちに「今から世界の人たちの生活や珍しい楽器を見に行くよ」と名調子で説明し、わくわくドキドキ感を抱かせた。子どもたちは自分の顔写真が入ったスタンプリ用のパスポートを持って、ゲートをくぐっていった。ゲートをくぐるときもセキュリティチェックがあり、子どもたちの気持ちを高ぶらせた。

博物館内の各国のコーナーでは、民族衣装を纏った学生が子どもたちに各国の文化や生活用品をわかりやすく説明し、子どもたちは幼いながらも興味深く、真剣に耳を傾けていた。民族楽器を手で触れ音が出ると歓声が上がり、民族衣装や帽子などを身にまとい満足気に笑顔がいっぱいであった。

世界の貴重な民族資料を目の当たりにし、手で触れる体験を通して、子どもたちはきっと世界

にはいろいろな人がいるのだな、いろいろな文化があるのだなと夢を膨らませてくれたと思う。今年の民族資料博物館での活動も、子どもたちにとってたいへん有意義であり、大成功であった。学生たちも多くのことを学ばせていただいた、貴重な時間となった。(花井)

催事名：「世界各国の民族衣装、民族楽器を体験」

(夏のオープンキャンパス 国際文化学科分会場)

日時：2012年8月5日(日)～7日(火)

会場：民族資料博物館 体験実習室

担当：中野智章(国際文化学科准教授)

参加者数：約40名

8月5・6・7日の3日間にわたって開催された夏のオープンキャンパスにおいて、民族資料博物館の体験実習室を利用した世界各地の民族衣装試着、ならびに民族楽器の体験コーナーを設置して好評を得た。これは博物館の前身である民俗資料室時代から続く、国際文化学科にとって重要な催しの一つである。

国際文化学科のオープンキャンパス会場は20号館1階のラウンジにあり、広大なキャンパス

の中では博物館から少し距離があるものの、そこを訪れた高校生を随時学生アシスタントが博物館へと積極的に引率し、所蔵資料の多様さや実際に博物館を使った授業などが学科で行われていることなどを解説した。学内に博物館があることに関する驚きや、実際に民族衣装を試着してアシスタント諸君とも大いに話が盛り上がったとのことで、実物を用い、書物を読むだけでは分からない、他大学とは異なる一歩踏み込んだ教育を展開している様子を良く理解してもらえたようである。

おりしも博物館では、現代教育学部が主催するわんぱく隊の子どもたちとも遭遇し、自分たちの幼い頃も思い出したとのこと。さまざまな世代の人びとが集まり、共に学び、そして情報を発信する場所としての博物館のありかたを再認識する良い機会ともなった。中部大には多くの留学生も在籍しているため、今後はそうした学生諸君が、自らの地域に根ざした民族衣装などを解説するような機会があっても良いのかもしれない。本来、オープンキャンパスとはもっとさまざまな人びとに開かれる性格のものであって良いはずである。そんな可能性の一端も垣間見ることができた貴重な三日間であった。博物館職員の方々にも温かいご協力を頂いたことに深く御礼申し上げたい。(中野)



国際文化学科オープンキャンパスでの
民族衣装体験

催事名：夏休み企画「チャレンジドチルドレンのための小さな冒険プログラム 2012」

日時：2012年8月28日（火）12：00～13：30

会場：民族資料博物館 多目的室・展示室

担当：中路純子（生命健康科学部作業療法学科准教授）

昨年から2年連続して、表記の様な活動を作業療法学科の学生と共に行っている。今年度は、対象の子ども達が小学校高学年から中学生・高校生であり、普通校に在籍していることから、民族資料館の利用をプログラムの中に入れさせていただいた。障害のある子ども達の自立への道のりを支援することを目的としたこの活動の紹介とともに、民族資料博物館を使わせていただいた感想を述べさせていただきたい。

初めての場所で活動することや慣れない人と行動を共にすることは、社会の中で生きるために必要な能力であるが、高い適応能力を必要とするために、障害のある子ども達にとっては難しい課題である。しかし、初めて出会う人が大学生ボランティアであり、学内の食堂や民族資料博物館などの公共施設を利用する事は、社会的行動を、ある程度整備された環境下で学習する経験になる。障害のある子ども達が、多くの経験を経て地域社会で生活する存在になる過程を支援するための資源として、大学の環境が一つのステップになる事が出来れば喜ばしいと考えた。また、将来、障害のある人たちの生活を支援する立場となる学生にとっても、教育的な経験の場になり得る。そのような私個人の思いと、子ども達の保護者の思いによってこの活動が始まった。

今回、民族資料博物館を利用させていただき、最も良かったと感じることは、民族衣装を着たり楽器を鳴らしたりする事が出来、見るだけでなく体験が出来たことである。子どもの好奇心は、体験することでもっと掻き立てられるし、知識として定着する。従来は、静かにみることだけしか許されないのが資料館などの利用ルールであった。「触れる」という利用の方法には驚きもあったが、非常にありがたかった。今回の体験を通して、日本以外の国への関心が高まったり、今後の学校での学習につながれば更に言うことはない。子ども達は一樣に、大学にもう一度行きたいと言ってくれた。その思いの一端に資料館での時間が含まれていることは、子ども達の楽しそうな笑顔が物語っている。来年度以降の活動にも、対象の子ども達にあわせた方法を考えながら、利用をさせていただきたいと考えている。（中路）

催事名：愛知県博物館協会 研修会（会場提供等）

日時：2012年10月26日（金） 10：30～16：00

会場：中部大学リサーチセンター 大会議室

参加者数：約45名

今年から、愛知県博物館協会に入会し、協会の研修会が開催された。内容は、外部有識者講演として、蓑 豊氏（兵庫県立美術館 館長）と、当館副館長による館の活動概要を説明した後、参加者は博物館へ移動し、展示室の見学をして終了となった。今後も、こうした場に積極的に参加し、他の美術博物館の学芸員らとの交流を深めていきたい。（原田）



研修会における館の紹介

催事名：国際関係学部による高校課外授業（会場提供等）

日時：2012年11月15日（木）

会場：民族資料博物館 多目的室・展示室

講師：和崎春日（民族資料博物館 館長、国際関係学部長）

財部香枝（国際文化学科准教授）

野田真里（国際関係学科准教授）

宗 婷婷（中国語中国関係学科講師）

大学見学会に参加した春日井市内の高校2年生（文系）が、民族資料博物館にて4グループに分かれ、それぞれ担当講師から世界各地の文化・社会について説明を受けた。その後、共同ディスカッションでは、講師の海外フィールドワークに基づくクイズに答えながら、各地域を学んでいった。後日、「珍しい民族楽器を触ることができて感激した」、「環境によって、衣服の厚さや形が異なることを知った」、「改めて世界は広いと感じた」、「機械を使わずに、こんなにも丈夫そうな武器や装飾品をどうやって作るんだろう？すごい！などなど、疑問や驚きで、とても楽しい時間になった」等の感想文が寄せられ、すべての感想文に対し、和崎講師が疑問に答え、またコメントを付けた。高校生の学びの場であるとともに、講師にとっても高校生の他文化理解の過程を理解する有意義な機会となった。（財部）



高校課外授業を行う館長
（国際関係学部長兼）



グループに分かれての課外授業風景

催事名：「国際文化学科セミナー」（協力行事）

展示のなかの「他者」との出会い—ハワイを事例にして—

日時：2012年11月9日（金） 13：35～15：05

講師：秋山かおり氏（松本市立博物館／総合研究大学院大学／人間文化研究機構共同研究員）

担当：財部香枝（国際文化学科准教授）

秋山氏は、常にエスニックグループ同士の緊張関係があるハワイをフィールドにし、歴史展示表象の研究を進めている新進気鋭の研究者である。博物館において、来館者が展示の中で自分以外の他者を発見する事によっていったい何が起きるのか、つまり展示における他者の表象が持つ意味とその効果、ならびに問題といった、抽象的になりがちなテーマを、具体的な事例を挙げながら説得力のある講演を行った。



協力行事セミナー

たとえば、2009年の企画展「Celebrate! : Evolution of Japanese Celebrations in Hawaii」（ハワイ日本文化センター：JCCH）の一枚の写真は、感謝祭で七面鳥の代わりにパイナップルにて祝う日系人コミュニティを示していた。

一方、展示の方法論として、エスニックグループ同士の緊張感がある社会において一致しない部分を調整する役割、否定ではなく「他者」の受容へとつながるオーラルヒストリーの有用性にも敷衍した。

最後に、「博物館の展示は常に認識していた「他者」を展示鑑賞という作業を通じて、自分と他者との線引きを、常に引き直すことを要求する可能性のある場にも成り得る」と結論付けた。

参加者は、学部生、大学院生など約40名であった。（財部）

博物館資料の活用

収蔵資料貸出

貸出先：国際関係学部 学生

資料名：民族衣装 6着

期間：平成24年10月27日、28日

催事名：「ワールドコラボフェスタ2012」

(国際交流・国際協力・多文化共生をテーマにした催事)

涉外

大学行事への参加

- ・ 4月 21日 春のオープンキャンパス開催日特別開館
- ・ 8月 5～7日 夏のオープンキャンパス開催期間中特別開館
- ・ 10月 13日 秋のオープンキャンパス開催期間日特別開館
- ・ 11月 2～4日 大学祭 開催期間中特別開館
- ・ 11月 11日 「父母との集い」開催日特別開館

広報活動

取材協力

- ・4月11日 中日新聞「中部大で書家の講師 書道部員と作品 筆と墨でシルクロード」
- ・6月15日 中日新聞「講演会 中部大連続講演 「五感をめぐる生活文化の情景」
「お知らせ（受講生募集記事）特別講座「絹絵」と「板絵」」
- ・8月3日 中日新聞「展覧会 夏休み企画「楽器のはじまり ～その素材から」」

公表・告示

- ・2月5日 愛知県公報 第2952号 教育委員会告示「博物館に相当する施設の指定」
第4号（生涯学習課）

大学広報等

- ・「中部大学 2013 大学案内」民族資料博物館
- ・「CHUBU UNIVERSITY CUMPUS LIFE 2012」民族資料博物館
- ・「学校法人中部大学 学園報」第461号 2012（平成24） 4.20
「特別講座 古典絵画（絹絵）を描く 受講生作品展」開催記録
- ・「学校法人中部大学 学園報」第462号 2012（平成24） 5.20
「民族資料博物館2012 春季展示 墨に歌う 砂漠の詩」開催記録
- ・「学校法人中部大学 学園報」第464号 2012（平成24） 7.20
「国際人間学研究所・民族資料博物館講演会」
「民族資料博物館2012 春季連続講演会 第1回」
「ラテンアメリカ展」
- ・「学校法人中部大学 学園報」第465号 2012（平成24） 9.20
「民族資料博物館2012 春季連続講演会 第2回」
「民族資料博物館2012 春季連続講演会 第3回」
「民族資料博物館 夏季企画展示「楽器のはじまり ～その素材から」」
（協力行事記事）「世界各地の民族衣装を試着して、ケータイで写真撮影をしよう！民族楽器を演奏しよう！」
- ・「学校法人中部大学 学園報」第467号 2012（平成24） 11.20
「民族資料博物館2012 秋季連続講演会 第1回」
- ・「学校法人中部大学 学園報」第468号 2012（平成24） 12.20
「民族資料博物館2012 秋季連続講演会 第2回」
「民族資料博物館2012 秋季連続講演会 第3回」
- ・「中部大学学内交流誌 ANTENNA」No.113 2012.20 広報部
「民族資料博物館、成長への基盤づくり」民族資料博物館副館長 宇治谷恵

- ・「学校法人中部大学 学園報」第 471 号 2013 (平成 24) 3.20
「民族資料博物館が博物館相当施設に指定される」
- ・「中部大学通信 ウプト wpwt」February 2013 No.185
「第 152 回 Random Shot 民族資料博物館 原田千夏子」
「キャンパス再発見 民族資料博物館」
- ・「中部大学学内交流誌 ANTENNA」No.115 2013.4 広報部
「民族資料博物館 博物館相当施設」民族資料博物館館長 和崎春日

その他 (学外) 催事案内

- 「おでかけガイド 愛知の博物館」2012.10～2013. 03 愛知県博物館協会
- 「おでかけガイド 愛知の博物館」2013.04～2013. 09 愛知県博物館協会

3 委員の外部活動

委員の外部活動

<宇治谷 恵>

講師

題目：博物館及び文化人類学の概要紹介

日時：5月25日

場所：名古屋南高校

題目：博学連携教員研修ワークショップ 2012 in みんなく

「学校と博物館でつくる国際理解教育—新しい学びをデザインする」

日時：8月7日

主催：国立民族学博物館・日本国際理解教育学会共催

内容：小中学生向けに開発した日中韓相互理解のための「すごろく教材」。文化の多様性と共通性及び歴史的、地理的な事項を博物館で学ぶきっかけとするプログラム。

題目：平成24年度 愛知県博物館等職員研修会「博物館と地域連携」

「中部大学・博物館について？みんなくから民博へ？」

日時：10月26日

主催：愛知県博物館協会

記事

「郷土館めぐり・中部大学民族資料博物館」

(地域社会 No.66 2012.3.31 地域社会研究会 所収)

その他 (大学にて非常勤講師)

4月～9月 京都文教大学にて博物館各論Ⅱ

龍谷大学にて博物館概論、博物館実習

10月～3月 中部大学にて映像分析 B

京都文教大学にて博物館各論Ⅰ、博物館実習

<杓谷茂樹>

講演

題目：2012年度秋「中部大学・日進市連携講座」

『世界遺産を通して知る、遠くて近いメキシコ・中米』

日時：10月2日(火)、10月9日(火)、10月16日(火)

主催：中部大学、日進市

会場：日進市市民会館

対象：一般、約20名、有料

内容：メキシコおよび中米の世界遺産を広く眺めてみることから始め、マヤやアステカなどの古代文明のあり方を学び、さらにこうした古代文明を征服したスペイン人の植民地となったメキシコについて世界史の視点から考え、最後に日本との歴史的な関わりに話を展開することで、世界遺産から読み取ることができる大きな歴史の動きを理解し、物理的にも精神的にも遠く感じられがちなメキシコや中米が実は近い存在であったことを明らかにした。

第1回：「メキシコ・中米の世界遺産」

第2回：「2つの世界遺産を通してみるマヤ文明」

第3回：「スペインの植民地メキシコと世界 - 銀の発見とアジア・日本」

題目：熱田生涯学習センター24年度後期講座「世界に一步踏み出そうⅢ

ー世界の文明開化を紐解く」

『マヤ文明の「謎」と「神秘」を紐解くー「遺跡たち」が教えてくれることー』

日時：12月18日（火）

主催：熱田生涯学習センター

会場：熱田生涯学習センター

対象：一般、48名、有料

内容：「マヤの預言によれば2012年12月21日に世界が滅びる」という言説をモチーフに、まずマヤ文明についての基本的な知識を説明した後、古代マヤ長期暦でこの日がどういう日であるかを明らかにして、この言説が最近になって外部で作られたものであることを理解した。その上で、人間の生活のあとが遺跡になるということがどういうことかを考え、遺跡と真摯に向かい合うことで、遺跡は様々な問題を抱えながら繁栄を謳歌している現代文明を鏡のように映し出し、我々にメッセージを送り続けているのだということを参加者全員で考えた。

<中山紀子>

記事

「文化人類学と笑い」（中部大学広報誌『ANTENNA』No.114, 15頁）2013年2月

著作

『トルコの農村にみる世俗化の諸相——西黒海地方M村の事例より——』（共著）

（粕谷元、多和田裕司編『イスラーム社会における世俗化、世俗主義、政教関係』

（SOLAS Research Paper Series 10）, 23-39頁。）2013年3月

講演

題目：「トルコの男女関係をめぐる諸問題」（平成24年度中東・イスラーム教育セミナー）

日時：9月16日

主催：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所主催／地域研究コンソーシアム協賛

<財部 香枝>

著作

『博物館学人物史』下 ISBN978-4639021957 雄山閣（項目執筆）[「伊藤圭介」（35-42頁）、「ダ
ヴィッド・モルレー」（55-64頁）、「フィリップ・フランツ・フォン・シーボルト」（25-33頁）、
「田中不二麿」（79-86頁）] 2012年5月

『伊藤圭介日記』第18集（共著） 名古屋市東山植物園 ISSN1883-2016 2012年11月

論文

「レメルソン発明および革新研究センターに関する研究：スミソニアン協会における科学
コミュニケーション実践」（『博物館学雑誌』第37巻 第2号 135-159頁）2012年4月

「科学博物館における技術革新研究およびその成果の活用について：スミソニアン協会の事例から」
（『日本の技術史をみる眼 第31回 講演報告資料集』24-39頁）2013年3月

「B.S.ライマンのアイヌ資料収集に関する小論：「北海道地質調査助手への一般的指示」を中心に」
（『北海道開拓記念館研究紀要』第41号 147-152頁）2013年3月

発表

題目：「スミソニアン協会における科学技術とジェンダー」（全日本博物館学会第38回研究大会）

日時：2012年6月16日

会場：明治大学

<中野智章>

著作

監修・共著『大英博物館』新人物往来社（2012年7月30日発行）

（担当箇所内訳）「第一部 古代エジプト」

外部委嘱委員等

京都大学総合博物館研究協力員（古代エジプト資料の整理・研究）

<澁谷鎮明>

著作

『東アジア地域の歴史文化と現代社会』（共著）桂書房，64-77頁 2012年1月

論文

<学際シンポジウム>風水思想と東アジア（共著）

（アリーナ，第14号，13-146頁）2012年12月

「韓国風水の形局論的側面—「気」は「かたち」に表れる」

（アリーナ，第14号，175-188頁）2012年12月

韓国のガイドブックに見る東京の観光空間—『ドラマイン東京』・『マニアック東京』の特別な場所—
貿易風，第7号，105-125頁 2012年4月

発表

「ふたつの高山—海外からの団体ツアー客・個人客の視点と観光行動—」（共同）

（日本国際文化学会）

日時：2012年7月

会場：国際文化会館・青山学院大学

「韓国の「裨補」と沖縄の「抱護」—風水概念と関わる人工林とその現代的評価」

（シンポジウム 生き続ける琉球の村落—固有文化にみる沖縄の環境観と空間形成技術）

日時：2012年10月

外部委嘱委員等

名古屋地理学会評議員

韓国文化歴史地理学会編集委員

ティンティン
<宗婷婷>

講演・演奏

題目：講演・演奏「三好学博士生誕150年記念フェスティバル記念コンサート～中国琵琶と曲
笛の調べ～」

日時：1月15日
主催：恵那市教育委員会
場所：恵那文化センター大ホール
入場者数：1000人

題目：講演・実演「中国古楽器鑑賞会」
日時：1月24日
主催：宝珠院
場所：曹洞宗宝珠院本堂内
入場者数：200人

題目：出演 名古屋テレビ 「ザキロバ!アシュラのススメ」
芸人ざきやまとロバートにラーメンの歴史を伝授（2012年5月15日に放送）
日時：4月11日
主催 名古屋テレビ

題目：講演・実演「シルクロードの風」
日時：5月5日
主催：奈良市ローズライフ老人ホーム
来場者数：約80人

題目：ナビゲータ「SHIBORI ショーと音楽の祭典」
ゲスト：ジュディ・オング侑玉、竹田耕三
日時：6月21日
主催：古川美術館
場所：古川美術館1階展示室特設会場
入場者数：100人2回

題目：出演「恵那市蛍祭り」（11年連続出演）
日時：6月23日
入場者数：約300人

題目：ナビゲータ・出演「世界無形文化遺産—古琴の響き」
日時：6月24日
場所：春日井市ヨタクン中国茶喫茶
来場者数：120名

題目：ナビゲータ[「三国志」と「源氏物語」に奏でられた 中国最古の弦楽器
—古琴&笛コンサート]

日時：6月25日

主催：宗次ホール

来場者数：320名

題目：講演・実演「仏陀の道シルクロードの響き」

日時：8月28日

主催：愛知県曹洞宗宗務所

場所：愛知学院大学ホール

来場者数：600人

題目：出演「月の光中国琵琶&笛コンサート」

日時：9月17日

主催：上越市文化会館

場所：上越文化会館中ホール

来場者数：400人

題目：出演「月の光中国琵琶&笛コンサート」

日時：9月22日

場所：東京汐留ホール(日仏文化協会内)

主催：ティンティン音楽工房

来場者数：100人

題目：出演「月の光中国琵琶&笛コンサート」

日時：9月30日

場所：名古屋ガスホール

主催：ティンティン音楽工房

来場者数：250人

題目：講演・実演「第40回福井県梅花流記念奉詠大会」

日時：10月3日

主催：曹洞宗福井県宗務所

場所：敦賀プラザ萬象大ホール

来場者数：1000人

題目：講演・実演「駿河親睦会」

日時：10月22日

主催：駿河国立療養所

場所：駿河国立療養所内

来場者数：100人

題目：トーク・実演「陸のシルクロード～敦煌・莫高窟の飛天達が語る東西音楽交流物語～」

日時：10月25日

主催：宗次ホール

場所：宗次ホール

来場者数：200人

題目：トーク・実演「草原のシルクロード～遊牧民による黄金の路～」

日時：11月19日

主催：宗次ホール

場所：宗次ホール

来場者数：320人

題目：講演・実演「西域のロマンとシルクロードの幻想の世界」

日時：12月1日

主催：紀北教育委員会

場所：紀北教育会館大ホール

来場者数：500人

題目：出演「中華人民共和国名古屋総領事館新年会」

日時：12月5日

主催：中華人民共和国名古屋総領事館

場所：領事館別館内

来場者数：200名

<前田富士男>

著作

『パウル・クレー 造形の宇宙』慶應義塾大学出版会、2012年10月、491頁。

『東西文化の磁場—日本近代の建築・デザイン・工芸における境界的作用史の研究』（共著）
山野英嗣編、共著、国書刊行会、2013年3月。（担当箇所）論文「モニスムスと生氣論と生命中心主義——宮澤賢治／中原實／バウハウスに見る芸術と生命」239—281頁。

論文

「アート・アーカイヴ—情報化社会の新しい人文知にむけて」
（『ドキュメンテーション／国際シンポジウム＜地域・社会と関わる芸術文化活動のアーカイヴに関するグローバル・ネットワーキング・フォーラム＞』NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター、41—48頁）2013年3月

小論：「春の散歩」（『三田評論』慶應義塾大学出版会、145頁、2012年4月号）

研究発表

題目：「西洋美術と色彩」
日時：4月21日
主催：日本色彩学会基礎学講座
場所：慶應義塾大学日吉構内

題目：「近現代の植物表現」
日時：12月2日
主催：明治学院大学言語文化研究所・文学部芸術学科・ドイツ語圏美術史研究連絡網
シンポジウム「植物を描く／植物で描く」
場所：明治学院大学

題目：「カゼルタ庭園とイエナ大学植物園とヴァイマル公園——ゲーテとクレーの原植物」
日時：2013年3月4日
主催：近代芸術学研究会「＜生動＞する形象とは何か——芸術制作と生命論」
場所：中部大学

題目：「アート・アーカイヴ—情報化社会の新しい人文知にむけて」
（国際シンポジウム＜地域・社会と関わる芸術文化活動のアーカイヴに関するグローバル・ネットワーキング・フォーラム＞）
日時：2013年2月13日
主催：NPO 法人アート&ソサイエティ研究センター
場所：国際交流基金ホール

講演

題目：講座「西洋絵画と色彩」

日時：2013年2月9日、16日

場所：東京都足立区生涯学習センター

外部委嘱委員等

「日本学術会議」第一部連携会員

「文部科学省独立行政法人評価委員会」委員（国立美術館部会長）

「大学評価・学位授与機構」運営委員

「宇宙航空研究開発機構(JAXA)」有人宇宙環境利用ミッション本部ミッション選定委員会委員

文化庁・野村総研「国立文化施設におけるパブリック・リレーションズ機能の向上に関する調査研究会」委員

財団法人「DNP文化振興財団」評議員

「アート・ドキュメンテーション学会」評議員

「形の文化会」副会長

<花井忠征>

論文

「幼児のインピーダンス法と標準身長体重曲線による肥瘦度判定の比較とその妥当性」（共著）
（教育医学第57巻第4号323-331頁）2012年6月

「韓国海軍将兵における体力の加齢変化と相関構図」（共著）
（教育医学第58巻第3号309-319頁）2013年2月

「アスペルガー症候群児の発達性協調運動障害に伴う不器用な運動発現に関する実証的研究」
（文部科学省科学研究費報告（基盤研究C21500546）2012年5月

発表

題目：「幼児にふさわしい遊具を求めて ―愛知県私立幼稚園における園庭の固定遊具の実態調査から―」（共同）（研究発表賞受賞）
（第3回幼児教育実践学会）

日時：8月1日

会場：東京家政大学

題目「生育環境から判断される身体発育と初経遅延の関係構図 ―韓国商業専科女子高生の解析―」（共同）
（第60回日本教育医学会記念大会）

日時：8月

会場：筑波大学（教育医学 第58巻1号 86-87頁）

題目：「アスペルガー症候群児のバランス運動における発達性協調運動の実態把握」（共同）
（第60回日本教育医学会記念大会）

日時：8月

会場：筑波大学（教育医学 第58巻1号 12頁）

題目：「ウェーブレット補間法によるアジア人男子体表面積の加齢変化とMPVの解析」（共同）
（第60回日本教育医学会記念大会）

日時：8月

会場：筑波大学（教育医学 第58巻1号 173-174頁）

題目：「アジア人男子体表面積の加齢変化とMPVの解析」（共同）
（東海体育学会第60回大会）

日時：10月（南山大学 研究発表抄録集 46頁）

題目：「韓国幼児のインピーダンス法と標準身長体重曲線による肥瘦度判定の比較とその妥当性」
（共同）（日本発育発達学会第11回大会）

日時：2013年3月（静岡産業大学 抄録集 72頁）

題目：「幼児の肥瘦度別運動能力の検証 -5歳児に関する解析-」（共同）（日本発育発達学会第11回大会）

日時：2013年3月（静岡産業大学 抄録集 79頁）

講演

題目：「子どものすこやかな成長と運動遊び」

日時：4月

主催：愛知県私立幼稚園連盟稲沢市部幼稚園祭

会場：稲沢市勤労福祉会館

題目：「発達障害児の運動特性と運動発達支援」

日時：6月16日

主催：浜松市教育委員会 西部地区言語・聴覚・発達障害教育研究会担当者講習会

会場：浜松市教育センター

題目：「発達の気になる子の不器用さと運動発達支援」

日時：2012年11月

主催：愛知県私立幼稚園連盟園長・主任研修会

会場：愛知県産業労働センター ウィンクあいち

題目：「不器用さの改善と運動機能を高める遊びの工夫」

日時：2013年1月

主催：豊橋市子ども発達センター

会場：豊橋市保健所・保健センター

講師

題目：「不器用さ」への理解と指導 運動における「不器用さ」のメカニズムと支援」

日時：7月

主催：精神発達障害指導教育協会

会場：東京ファッションタウン（TFT）ビル

題目：「不器用さ」への理解と指導 粗大運動へのアプローチ 運動遊びの工夫」

日時：7月

主催：精神発達障害指導教育協会

会場：東京ファッションタウン（TFT）ビル

題目：「平成23年度教員免許状更新講習 幼児の生活習慣と幼児体育ー生活習慣と体力・運動能力をみつめてー」

日時：8月

主催：全日本私立幼稚園幼児教育研究機構

会場：名古屋市 日本ガイシフォーラム

題目：「平成23年度教員免許状更新講習 子どもと創る実践教育ー子どもが主人公になる体育・健康教育ー」

日時：8月

会場：中部大学

教科書

題目：「運動における「不器用さ」のメカニズムと支援」

（精神発達障害指導教育協会セミナーテキストB5 「不器用さ」の理解と指導 1-7頁）

2012年7月

題目：「粗大運動へのアプローチ ー運動遊びの工夫ー」

（精神発達障害指導教育協会セミナーテキストB5 「不器用さ」の理解と指導 8-14頁）

2012年7月

報告書

題目：共著「保育者養成校における保育実践力の向上に焦点をあてた養成カリキュラム—少人数くらすによる教育支援（1）—実施報告書」

（中部大学現代教育学部幼児教育学科 1-76 頁）2013 年 3 月

題目：共著「「中部大学子育てすくすく育て隊」地域貢献活動 実施報告書」

（中部大学現代教育学部幼児教育学科 1-88 頁）2013 年 3 月

外部委嘱委員等

日本体育学会代議員 日本体育学会

日本教育医学会常任理事 日本教育医学会

学術誌「教育医学」編集委員長 日本教育医学会

子どものからだと心・全国研究連絡会議全国委員 子どものからだところろ・全国研究連絡会議

岐阜市教育委員会点検・評価委員会委員長 岐阜市教育委員会

小牧市子ども心の相談室巡回相談員（19 小中学校巡回指導） 小牧市教育委員会

小牧市スポーツ推進審議会委員 小牧市教育委員会

<千葉成夫>

著作

『カラヴァッジオからの旅』2012 年 11 月 10 日、五柳書院、208 頁（ ISBN978-4-901646-8 C0395）

「齋藤義重展を企画したこと」

『東京国立近代美術館 60 年史』、2012 年 12 月、東京国立近代美術館刊、813～814 頁

定期刊行物（雑誌・新聞等）

「"アンケート＝Korean Contemporary Art beyond Korea"への回答」

（『Art in Culture』（Korea）、2012 年 1 月号、84 頁）

「（書評）榎木野衣著・太郎と爆発について」

（『東京新聞』、2012 年 4 月 8 日号）

「寺田康雄 — 大らかさが表現になるとき」

（『炎芸術』、第 110 号、2012 年夏（5 月）、81 頁）

「（インタビュー）千葉成夫氏に聞く戦後日本美術史 『具体美術協会』という現代美術の始まり：

日本の固有性を模索する」（『美術の窓』、2012 年 5 月号、48-49 頁）

「（世界の新人）中国現代美術の新人」

（『アートコレクター』、2012 年 9 月号、56 頁）

展覧会図録類

「川俣正」

『川俣正 — Box Construction』展図録, 釜山, Gallery Yookgongsa,
2012年3月17日～5月5日 (刊行は2012年、日本語原文と韓国語訳)

「存在としての『彼女』 — ミケランジェロ・ピストレットの肖像画の試み」

『ミケランジェロ・ピストレット』展図録, 釜山, Gallery Yookgongsa,
2012年5月23日～6月30日 (日本語原文と韓国語訳)

「我也不知道自己是如何成長的 — 陳文令の原風景」

『陳文令』展図録, 北京, 品画廊
2012年9月 (中国語訳と英語訳)

「闇をたづさえて — ヤン・ファーブルの平面作品」

『ヤン・ファーブル : Pride comes before a fall of lash』展図録, 釜山, Gallery Yookgongsa,
2012年9月5日～10月20日 (日本語原文と韓国語訳)

「感覚の原野・形の原野・漢字の原野 — 安庭炫の作品」

『安庭炫』展図録, ソウル, Space Hongjee,
2012年11月2日～12月2日

「ジャン＝リュック・ヴィルムートゥ — 流れ去る時への静かなまなざし」

『ジャン＝リュック・ヴィルムートゥ : My House』展図録, 釜山, Gallery Yookgongsa,
2012年11月3日～12月8日 (日本語原文と韓国語訳)

「オールド&ニュー・シネマ・パラダイス！」

『スボード・グブタ』展案内状, 名古屋, 名古屋画廊, 2012年11月

講演・シンポジウム

題目：発表「彫刻を捉え直す — 100年前の問題提起」

「第1回昌原彫刻ビエンナーレ展記念シンポジウム＝彫刻の未来」

日時：2012年10月27日

会場：韓国、昌原市、慶尚南道立美術館

外部委嘱委員等

展覧会審査員

「2012年利根山光人記念大賞展 トリエンナーレ・きたかみ」

主催：岩手県北上市

日時：2012年6月14～15日、於・仙台

<原田千夏子>

企画解説

題目：夏休み企画「楽器のはじまり ～その素材から」（常設コレクション展示）

日時：2012年8月～9月

場所：中部大学民族資料博物館 常設展示

題目：平成24年度特別講座[古典絵画（絹絵・板絵）を描く]

および作品発表展示 制作工程・歴史解説作成

日時：（講座）2012年9月～2月

（展示）2013年3月～4月

場所：中部大学民族資料博物館

論文

調査研究報告「平成24年度 民族資料博物館 調査研究事業における試み
～古典絵画技法を通じた素材研究2」2013年秋予定

※全国博物館学協議会 西日本部会 平成24年10月～平成25年9月 研究助成報告予定

※委員の外部活動については、各委員からの報告にもとづきそのまま掲載

H24年度 中部大学民族資料博物館 展示・催事一覧

名称		料金	参加者数	内容		主催/共催	備考
◇講演							
6/6 (水)	興福寺の天平文化と空間再構成と国宝館 - 文化史の新しいデザインにむけて	無料	50	文化講演(美術博物館展示設計)	共催	国際人間学研究所	
6/20 (水)	春季連続講演1「酒飯論絵巻-風俗画の原点」	無料	60	文化講演(日本美術史)	主催	民族資料博物館	
7/5 (木)	春季連続講演2「喫茶文化と博物館」	無料	80	文化講演(茶道文化史)	主催	民族資料博物館	
7/19 (木)	春季連続講演3「ミュージアムとは何か 第一のブームをうけて」	無料	35	文化講演(博物館・都市文化論)	主催	民族資料博物館	
10/17 (水)	秋季連続講演1「秋季展示に寄せて トプカプ宮殿 絵画写真展」	無料	90	文化講演(西アジア美術史)	主催	民族資料博物館	
11/14 (水)	秋季連続講演2「色彩と脳 一目の不思議世界」	無料	87	文化講演(色彩学)	共催	民族資料博物館	
11/28 (水)	秋季連続講演3「美のかたち(フォルム)」	無料	63	文化講演(比較芸術学)	主催	民族資料博物館	
◇常設展示 テーマ展							
8/5 (日)～9/7 (金)	夏休み企画「楽器のはじまり ～その素材から」	無料	483	解説パネル「世界の楽器各種」	主催	民族資料博物館	
◇企画展示 (多目的室)							
4/2 (月)～4/26 (金)	春季展示「墨に歌う砂漠の詩」(墨書作品展)	無料	378	書道部学生と指導講師作品	主催	民族資料博物館	
6/1 (金)～7/19 (木)	ラテンアメリカ展	無料	765	個人所蔵資料借用	主催	民族資料博物館	
9/25 (火)～12/14 (金)	秋季展示「写真展 トルコ トプカプ宮殿所蔵 絵画」	無料	1880	東西美術交流センター企画	主催	民族資料博物館	
3/22 (金)～4/12 (金)	特別講座「古典絵画(絹絵・板絵)」受講生作品展	無料	298	受講生と指導講師作品	主催	民族資料博物館	
◇ギャラリートーク							
(2012) 4/11 (水)	作品解説 (春季展示「墨に歌う砂漠の詩」)	無料	10	展示作品解説、書の歴史	主催	書道部学生、指導講師(書家)	
(2013) 4/15 (月)	作品解説 (特別講座受講生作品展「絹絵」「板絵」)	無料	26	作品講評	主催	民族資料博物館、画家	
◇常設展示見学							
7/25 (水)	名瀬地区家庭科高校教員研修会	無料	30	館概要紹介、衣装試着等	共催	学外研究会主催	
8/6 (土)	あつまれ! わんぱく隊 (教育フレンドシップ)	無料	125	地域幼児児童、学生	共催	教育フレンドシップ活動	
8/5 (日)～8/7 (火)	国際文化学科オーブンキャンパス会場「民族衣装と楽器体験」	無料	36	高校生体験と学科紹介	共催	国際文化学科	
8/28 (火)	チャレンジドレンのための小さな冒険プログラム2012	無料	20	地域の児童、父兄、教員	共催	作業療法学科教員ほか	
10/26 (金)	愛知県博物館協会研修会	無料	45	館概要紹介	共催	愛知県博物館協会	
11/15 (木)	地域高校の課外授業の実施 (国際関係学部)	無料	49	グループ見学 鑑賞授業	共催	国際関係学部	
◇実技ワークショップその他							
7/20、11/9他	国際文化学科セミナー	無料	25	広報協力	主催	国際文化学科	
9/19 (水)～2/20 (水)	特別講座「古典絵画(絹絵・板絵)を描く」	有料	25	実技制作、美術史	主催	日本美術院日本画家	
			催事別小計			4635	

中部大学民族資料博物館年報 2012

平成 25 年 5 月 31 日印刷

平成 25 年 5 月 31 日発行

編集・発行 中部大学民族資料博物館

〒 487-8501

愛知県春日井市松本町 1200 番地（附属三浦記念図書館 2 階）

T E L 0568-51-9193（直通）

F A X 0568-51-9194

印 刷 不二印刷工業株式会社

